

高知県埋蔵文化財センター年報

第 18 号

2008 年度

財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

高知県埋蔵文化財センター年報

第 18 号

2008 年度

財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

序

平成20年度は指定管理者としての最終年度に当たり、より多くの県民の方に埋蔵文化財に親しんで頂けるよう取り組んで参りました。埋蔵文化財センターには昨年度の約17%増の2,561人の入館者があり、現地説明会にはこれまでで最多の延べ約1,530人の方に参加頂きました。

まず、広報普及事業では、より見やすい年間行事カレンダーの作成やホームページの修正等を行い利用者の便を図ると共に昨年度実施した事業に加え、6月には「掘りゆうぜよ高知 2008 遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを県内の小中学校生全員に配布し、7～9月の事業を紹介したところ、予想以上の反響があり、親子考古学教室は14回、古代ものづくり体験教室では7回追加開催し、多くの方に埋蔵文化財センターに来て頂きました。また、出前考古学教室は平成11年度の南国市内を対象とした試行事業から数え10年目に当たり、授業を受けた生徒は12,743人、参加生徒数は20,810人に達しました。申し込み数も年々増え、平成20年度は昨年度より14件多い77件あり、埋蔵文化財センターの欠くことのできない事業になっています。

発掘調査事業は、国の事業を中心に11件の事業を受託し、12遺跡の発掘調査と7遺跡の整理作業を実施しました。この内、全事業費の約20.9%を占める国の道路関係事業は、道路特定財源の一般財源化に伴って、4月当初に契約が締結できず、大きな問題となりました。一方、第二次世界大戦の坑道などが確認された向山戦争遺跡や全国的にも類例の少ない江戸時代前期の護岸遺構が検出された上ノ村遺跡など大きく報道され注目された発掘調査もあり、埋蔵文化財にとって明るい話題を提供しました。

今後も埋蔵文化財センターは高知県の歴史解明に繋がる発掘調査事業と共にその成果を広く県民の方に伝える広報普及事業が一体となるように努めてまいります。そして、県民文化の振興に資する施設と同時に心の安らぎの場となって行きたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年7月

財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 小笠原 孝夫

例言

1. 本書は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成20(2008)年度事業の概要をまとめたものである。
2. 「Ⅲの2の(4) 出前考古学教室」と「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」は担当が中心となって執筆を行い、廣田が取りまとめ編集した。それ以外は廣田が執筆、編集した。
3. 「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」に掲載した遺跡位置図はS=1/25,000の地形図を使用している。
4. 本書作成データについては、巻末の奥付上段に記している。

本文目次

I 財団法人高知県文化財団.....	1	5. 貢山城跡(08-7IM).....	35
1. 財団法人高知県文化財団の概要.....	1	6. 鎌田遺跡(08-11IK).....	36
2. 財団法人高知県文化財団の組織.....	1	7. 天神溝田遺跡(08-3ITM).....	37
II 埋蔵文化財センター.....	3	8. 上ノ村遺跡(08-8TK).....	38
1. 埋蔵文化財センターの概要.....	3	9. 土島田遺跡(08-5NS).....	40
2. 埋蔵文化財センターの組織.....	3	10. 伏原遺跡(07-15KF・08-15KF).....	42
3. 埋蔵文化財センターの施設.....	5	11. クノ丸遺跡(08-6KKK).....	44
4. 利用方法等について.....	6	12. 天神溝田遺跡(08-3ITM).....	45
III 年間事業の概要.....	7	V 条例・規則等.....	47
1. 発掘調査事業.....	7	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例.....	47
2. 指定管理事業.....	13	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する規則.....	51
3. その他の事業.....	29	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の 指定.....	52
IV 各遺跡の発掘調査概要.....	31		
1. 関遺跡(08-1NS).....	31		
2. 向山戦争遺跡(08-2NM).....	32		
3. 徳王子大崎遺跡(08-9KO).....	33		
4. 徳王子前島遺跡(08-10KM).....	34		

表目次

表 1 高知県文化財団役員一覧.....	2	表 12 平成20年度公開講座3.....	18
表 2 高知県埋蔵文化財センター職員一覧.....	4	表 13 平成20年度物品(県有物)貸出し一覧.....	19
表 3 発掘調査推移表.....	7	表 14 平成20年度現地説明会一覧.....	20
表 4 平成20年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡) 一覧表.....	8	表 15 平成20年度施設等見学者一覧.....	21
表 5 平成20年度受託発掘調査事業(整理作業)一覧表	10	表 16 平成11～20年度出前考古学教室実績一覧.....	22
表 6 入館者推移表と平成20年度の入館者.....	13	表 17 平成20年度出前考古学教室前期実績一覧.....	23
表 7 公開講座参加者数(館内).....	15	表 18 平成20年度出前考古学教室後期実績一覧.....	25
表 8 平成20年度考古学講座.....	16	表 19 平成20年度職員専門研修.....	28
表 9 平成20年度発掘調査報告会.....	16	表 20 平成20年度独立行政法人奈良文化財研究所埋 蔵文化財担当者研修課程.....	28
表 10 平成20年度公開講座1.....	16	表 21 平成20年度情報交換会.....	28
表 11 平成20年度公開講座2.....	17	表 22 平成20年度講師等派遣依頼一覧.....	29
		表 23 平成20年度会議等参加者一覧.....	30

図目次

図 1 高知県文化財団組織図.....	2	図 4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図 (S=1/800).....	6
図 2 高知県埋蔵文化財センター組織図.....	3	図 5 受託発掘調査事業推移グラフ.....	7
図 3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図 (S=1/800).....	5	図 6 平成20年度受託事業発掘調査位置図(番号は受 託事業番号).....	7

目次

託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と
一致) 9

図7 平成20年度受託事業整理事業位置図(番号は受託
発掘調査事業(整理事業)一覧表の番号と一致)..... 11

写真目次

写真 1	年間行事カレンダー.....	13	写真27	完掘した竪穴住居跡.....	33
写真 2	発掘へんろポスター.....	14	写真28	櫛出土状態.....	34
写真 3	企画展2展示解説会.....	14	写真29	完掘した古代の自然流路.....	34
写真 4	企画展2ポスター.....	14	写真30	平場.....	35
写真 5	特別展ポスター.....	15	写真31	堀切.....	35
写真 6	特別記念講演会.....	15	写真32	遺構完掘状態.....	36
写真 7	考古学講座.....	15	写真33	遺物出土状態.....	36
写真 8	発掘調査報告会.....	17	写真34	遺構完掘状態.....	37
写真 9	掘りゆうぜよ高知2008.....	17	写真35	鉄滓検出状態.....	37
写真10	親子考古学教室.....	17	写真36	遺跡遠景.....	38
写真11	古代ものづくり体験教室.....	18	写真37	護岸遺構1.....	39
写真12	ホームページ.....	19	写真38	護岸遺構2.....	39
写真13	施設見学(南国市中央高齢者教室).....	20	写真39	西側の調査区.....	40
写真14	施設見学(高知市介良潮見台小学校).....	20	写真40	東側の調査区.....	41
写真15	出前考古学教室.....	22	写真41	道路遺構.....	41
写真16	遺物展示解説.....	24	写真42	遺構完掘状態.....	42
写真17	火起こし.....	24	写真43	壺棺墓群.....	42
写真18	勾玉づくり.....	25	写真44	弥生土器甕出土状態.....	43
写真19	遺物展示.....	26	写真45	勾玉出土状態.....	43
写真20	水野先生特別記念講演会.....	27	写真46	紡錘車出土状態.....	43
写真21	現地説明会.....	28	写真47	集石検出状態.....	44
写真22	休・廃校活性化プロジェクトin布 2008.....	29	写真48	遺物出土状態.....	44
写真23	古代の大溝.....	31	写真49	遺構完掘状態1.....	45
写真24	観測濠.....	32	写真50	遺構完掘状態2.....	45
写真25	坑道.....	32	写真51	須恵器杯蓋出土状態.....	46
写真26	竪穴住居跡検出状態.....	33	写真52	弥生土器出土状態.....	46

I 財団法人高知県文化財団

1. 財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し、或いは歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといった県民の文化的ニーズがかつてなく高まってきている。

このような時代の趨勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならないが、特に、その推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間がそれぞれの叡知、力を出し合い、一致協力していくことが何よりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して、総合的・体系的に運営実施すると共に、県民の文化活動の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を生かし、公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

(2) 事業内容

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- ② 教育、学術及び文化の国際交流事業
- ③ 歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営事業
- ④ 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ⑤ その他文化振興に関する事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 事務局所在地

高知県高知市高須353-2
高知県立美術館内

2. 財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

① 理事会役員

理事長1名 副理事長1名 理事8名 監事2名

② 事務局

総務部長 - 総務課長 - 事務職員

2. 財団法人高知県文化財団の組織

③ 財団組織図

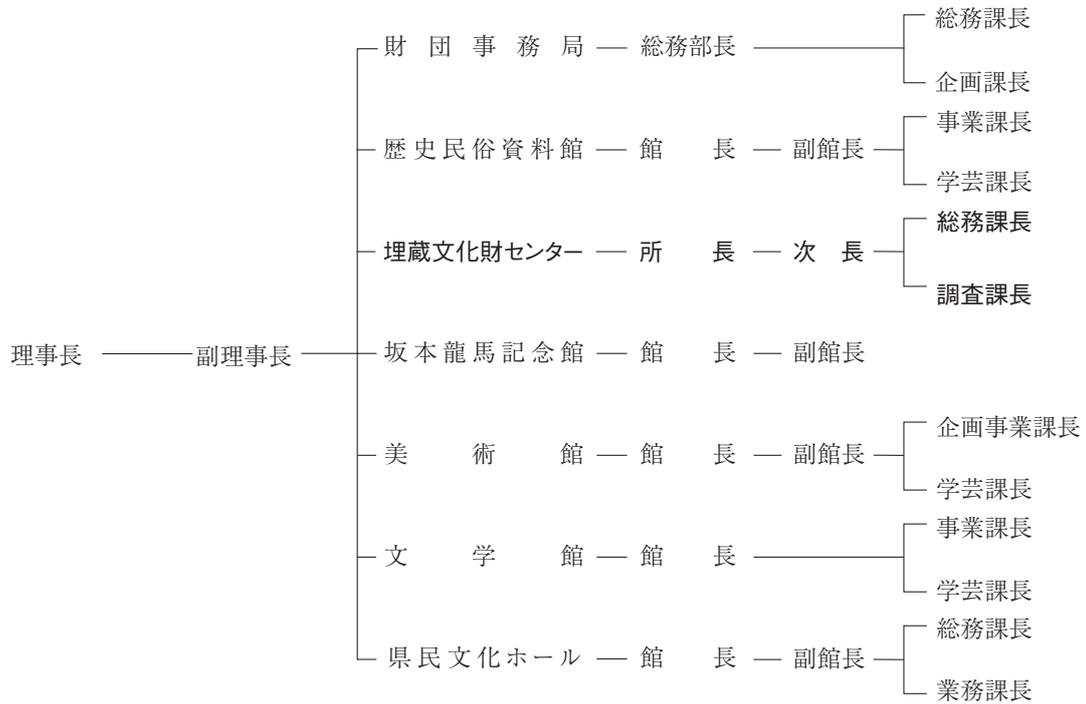


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団役員一覧

役職名	氏名	備考
理事長	島田 京子	
副理事長	青木 章泰	(株)四国銀行代表取締役頭取
理事	吉岡 和夫	高知県文化環境部長
〃	岡崎 誠也	高知県市長会会長
〃	吉岡 珍正	高知県町村会会長
〃	藤戸 謙吾	(株)高知新聞社代表取締役社長
〃	竹内 克之	高知商工会議所副会頭
〃	伊野部 重晃	(株)高知銀行代表取締役頭取
〃	山本 眞壽	染織家
〃	藤田 直義	高知県立美術館館長
監事	高橋 重一	(株)四国銀行お客様サポート部長
〃	廣光 良昭	税理士

平成21年3月31日現在

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 設立年月日

平成3年4月1日

(4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原南泉1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) 埋蔵文化財センターの組織図

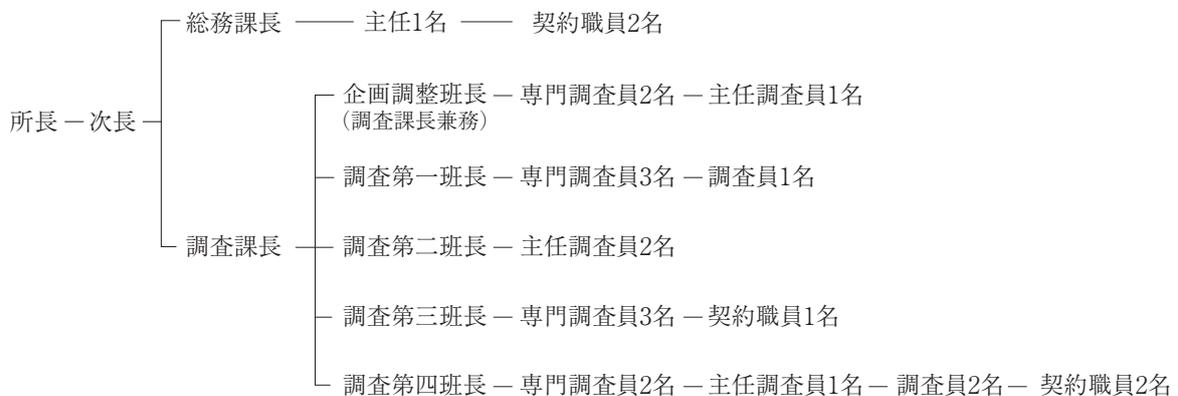


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表2 高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		小笠原 孝夫	県教育委員会文化財課副参事	
次 長		森田 尚宏	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長	恒石 雅彦	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	主 任	谷 真理子	(財)高知スポーツ振興財団主任	
	契約職員	榊 琴美	(財)高知県文化財団	
	〃	中澤 公子	〃	
	〃	小串 ひさこ	〃	
調査課	調査課長	廣田 佳久	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	企画調整班	企画調整班長(兼)	廣田 佳久	〃
		専 門 調 査 員	鍵山 真一	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	森 信輔	〃
		主任調査員	筒井 三菜	(財)高知県文化財団
	調査第一班	調査第一班長	山本 哲也	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	前田 光雄	県教育委員会文化財課主任
		〃	安岡 猛	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	近藤 孝文	〃
		調 査 員	松本 安紀彦	(財)高知県文化財団
	調査第二班	調査第二班長	吉成 承三	〃
		主任調査員	坂本 幸繁	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	徳平 涼子	(財)高知県文化財団
	調査第三班	調査第三班長	池澤 俊幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	野田 秀夫	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	山田 耕造	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	坂本 憲昭	(財)高知県文化財団
		契 約 職 員	西川 雅美	〃
	調査第四班	調査第四班長	出原 恵三	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	井上 昌紀	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	舛田 龍也	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		主任調査員	久家 隆芳	(財)高知県文化財団
		調 査 員	中石 忍	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	島内 洋二	(財)高知県文化財団
		契 約 職 員	奥宮 千恵子	〃
		〃	松吉 佐和	〃
	県教育委員会文化財課へ派遣		下村 裕	〃

3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地：高知県南国市篠原南泉1437-1

敷地面積：4,203㎡

建物構造：本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫：重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積：2,073.65㎡

(本館：617.02㎡ 北館：263.12㎡ 南館：574.11㎡ 収蔵庫：619.40㎡)

延床面積：4,073.54㎡

(本館：1,037.11㎡ 北館：518.40㎡ 南館：1,045.92㎡ 収蔵庫：1,472.11㎡)

事業費：650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

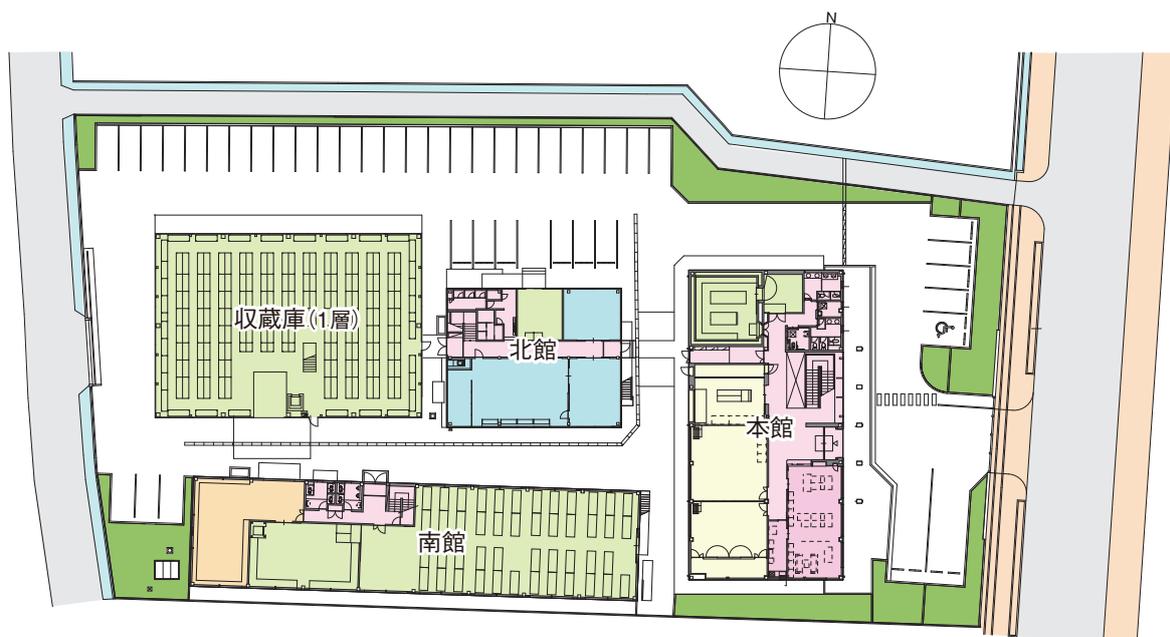


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

3. 埋蔵文化財センターの施設

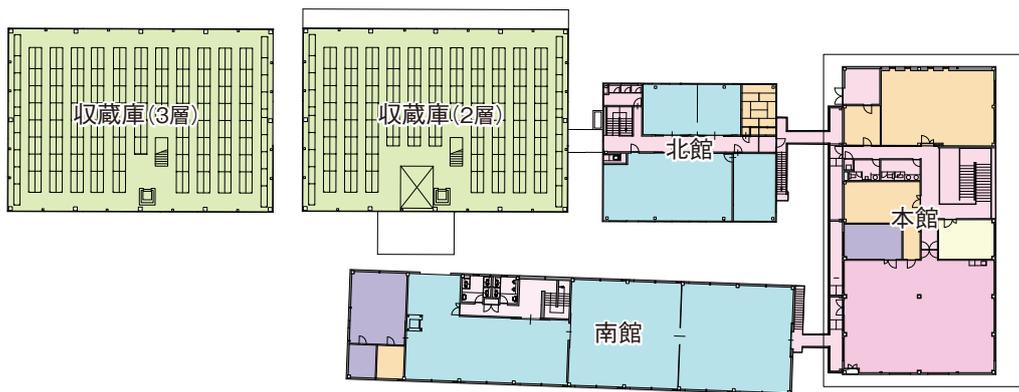


図4 高知県立埋蔵文化財センター 2F 平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

(1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

(2) 利用時間

午前9時から午後5時まで

(3) 休館日

土・日曜日、祝祭日、12月29日～1月3日

(8・9月は土・日曜日、祝祭日も開館、10～1月は土曜日のみ開館)

(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所 〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel 代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax 代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

WebDB <http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査事業

平成20年度は道路特定財源問題で、国の道路関係事業が当初契約できなかったが、発掘調査の経費は平成19年度とほぼ同じ557,966,395円であった。経費内訳は、国関係が346,332,000円(62.1%)、県関係が193,196,395円(34.6%)、市町村関係が18,438,000円(3.3%)であり、国関係の占める割合は昨年度の約78%から15.9ポイント下がったものの、当センターの発掘調査事業の中核となっている。

国関係では、土佐国道事務所関係の高知南国道路外と高知河川国道事務所の波介川河口導流事業の二つがあり、発掘調査の規模はほぼ同じであった。高知南国道路外では平成15年度から始まった高知南国道路と南国安芸道路、平成19年度から着手した高知西バイパスがあり、今後高知南国道路では関遺跡、田村遺跡群、南国安芸道路では東野土居遺跡、高知西バイパスではバーガ森北斜面遺跡の発掘調査が予定されている。波介川河口導流事業は平成20年度が発掘調査の最終年度の予定であったが、旧堤防の下層から近世初めと見られる護岸遺構が新たに発見されたことと未買収地が残っていたことなどから平成21年度に発掘調査が残ることとなった。今後平成23年度まで整理作業を行う予定である。

県関係では、土木関係と教育委員会関係の二つがあり、土木関係の経費が県関係の約98%を占めた。いずれも高知県中央東土木事務所関係で、都市計画道路高知山田線(伏原遺

表3 発掘調査推移表

年 度	受託件数	受託面積
平成3年度	16件	24,310㎡
平成4年度	11件	14,663㎡
平成5年度	16件	17,010㎡
平成6年度	10件	28,233㎡
平成7年度	14件	28,856㎡
平成8年度	20件	88,178㎡
平成9年度	14件	93,675㎡
平成10年度	20件	111,990㎡
平成11年度	23件	41,320㎡
平成12年度	6件	27,314㎡
平成13年度	31件	21,853㎡
平成14年度	28件	10,488㎡
平成15年度	17件	5,912㎡
平成16年度	16件	34,285㎡
平成17年度	23件	58,084㎡
平成18年度	9件	38,519㎡
平成19年度	11件	41,662㎡
平成20年度	11件	53,792㎡
合 計	296件	740,144㎡

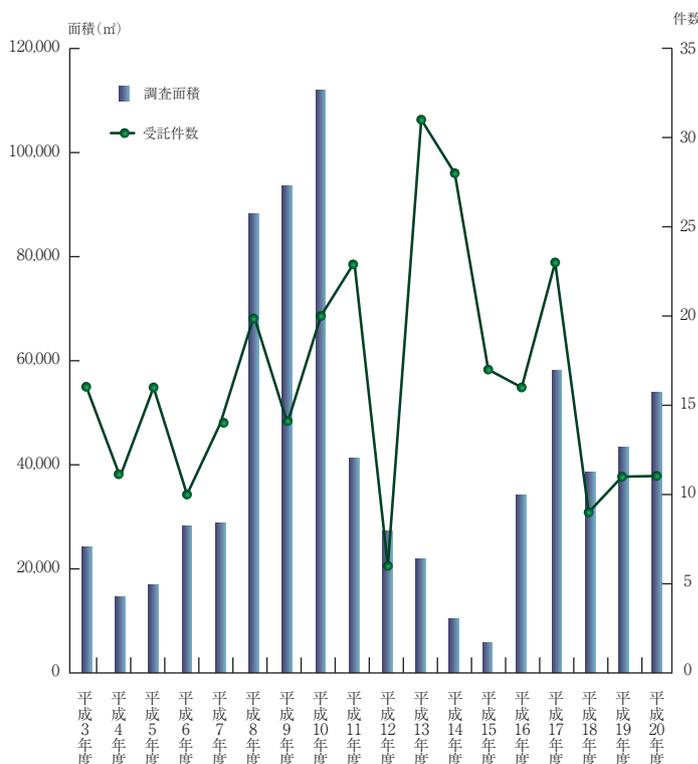


図5 受託発掘調査事業推移グラフ

1. 発掘調査事業

跡・ひびのきサウジ遺跡), 国道 195 号改築(土島田遺跡), 県道奥西川岸本線(クノ丸遺跡)に伴う発掘調査であった。教育委員会関係では高知城跡三ノ丸石垣改修に伴う整理作業があり, 平成 21 年度が最終年度となっている。

平成 20 年度の新事業はクノ丸遺跡の発掘調査のみでそれ以外はいずれも過年度からの継続事業で, 高知南国道路, 南国安芸道路などでは今後少なくとも 5 年以上一定規模の発掘調査が予定されている。このような状況の中, 例年課題となっているのは調査員の高齢化等による専門職員の不足で, 今後県による新規職員の採用がなければ, 10 年後には専門職員が不在といった状況になる。

埋蔵文化財センターの体制は, 派遣職員が 2 名減となり, 正職員数では 26 名となった。内訳は考古専門職員が 12 名(県派遣 5 名, 財団職員 5 名, 嘱託職員 2 名), 県派遣の事務職員が 2 名, 派遣教員が 11 名, 他財団派遣職員が 1 名である。また, 高知県教育委員会に財団職員 1 名を派遣している。組織構成は

表 4 平成 20 年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積 (㎡)	調査期間	事業者	原因	委託者
1	関遺跡	08-1NS	南国市大桶字関	古代	集落跡	700	7/1 ~ 9/4	国交省	道路	県教委
2	向山戦争遺跡	08-2NM	南国市伊達野	近代	戦争跡	4,000	9/4 ~ 1/8	国交省	道路	県教委
3	徳王子大崎遺跡	08-9KO	香南市香我美町 徳王子大崎	弥生 ・ 中世	集落跡	1,650	7/15 ~ 11/5	国交省	道路	県教委
4	徳王子前島遺跡	08-10KM	香南市香我美町 徳王子前島	弥生 ~ 中世	集落跡	2,300	11/6 ~ 3/21	国交省	道路	県教委
5	貢山城跡	08-7IM	吾川郡いの町 小鎌田字貢山	中世	城跡	1,079	11/12 ~ 1/13	国交省	道路	県教委
6	鎌田遺跡	08-11IK	吾川郡いの町 小鎌田	古代 ・ 中世	集落跡	163	11/5 ~ 12/9	国交省	道路	県教委
7	天神溝田遺跡	08-3ITM	吾川郡いの町 天神	古代 ・ 近世	集落跡	1,131	1/14 ~ 3/25	国交省	道路	県教委
8	上ノ村遺跡	08-8TK	土佐市新居	縄文 ~ 近代	集落跡	21,140	4/18 ~ 3/16	国交省	河川	県教委
9	土島田遺跡	08-5NS	南国市小籠・東 崎	弥生 ~ 近世	集落跡 官衙跡	14,654	4/19 ~ 3/20	高知県	道路	高知県
10	伏原遺跡	08-15KF	香美市土佐山田 町伏原	弥生 ~ 近世	集落跡	3,253	4/1 ~ 9/30	高知県	道路	高知県
11	クノ丸遺跡	08-6KKK	香南市香我美町 岸本	弥生 ~ 近世	集落跡	2,322	7/21 ~ 10/31	高知県	道路	高知県
12	天神溝田遺跡	08-3ITM	吾川郡いの町 天神	弥生 ~ 近世	集落跡	1,400	7/15 ~ 10/31	いの町	道路	いの町
合計						53,792				

遺跡名のNo.は、「IV 各遺跡の発掘調査概要」の遺跡の番号と同一である。

所長、次長の下に総務課と調査課を置き、総務課は総務課長1名、主任1名、契約職員2名、調査課は調査課長(企画調整班長を兼務)の下に、広報普及事業等を行う企画調整班、発掘調査事業を行う調査第一班から調査第四班を置く。調査課の人員内訳は調査課長兼企画調整班長1名、調査班長4名、調査員17名(専門調査員10名、主任調査員4名、調査員3名)、契約職員3名であり、この内実質発掘調査を担当するのは考古専門職員10名、派遣教員11名である。

調査課の業務分担は、企画調整班が物品(県有物)等の貸出やホームページとWeb公開データベースの管理などの情報公開、企画展等の公開展示、各種講座の公開講座、出前考古学教室など指定管理による広報普及業務、調査第一班が県関係(県土木事務所)、調査第二班が高知西バイパス、県関係(県土木事務所、県教育委員会)、市町村関係(いの町)、調査第三班が高知河川国道事務所関係、調査第四班が土佐国道事務所関係と県関係(県土木事務所)に関する事業であった。

(1) 受託事業

平成20年度の受託事業件数は11件⁽¹⁾で、発掘調査と整理作業の両方が2件、発掘調査のみが4件、整理作業のみが5件であった。これを遺跡数で見ると、発掘調査が12遺跡、整理作業が7遺跡の全部で19遺跡となる。

調査面積は昨年度の約29.1%増の53,792㎡であり、内訳は国関係が32,163㎡(約59.8%)、県土木関係が20,229㎡(37.6%)、市町村関係が1,400㎡(2.6%)であった。この調査面積が現体制で調査で

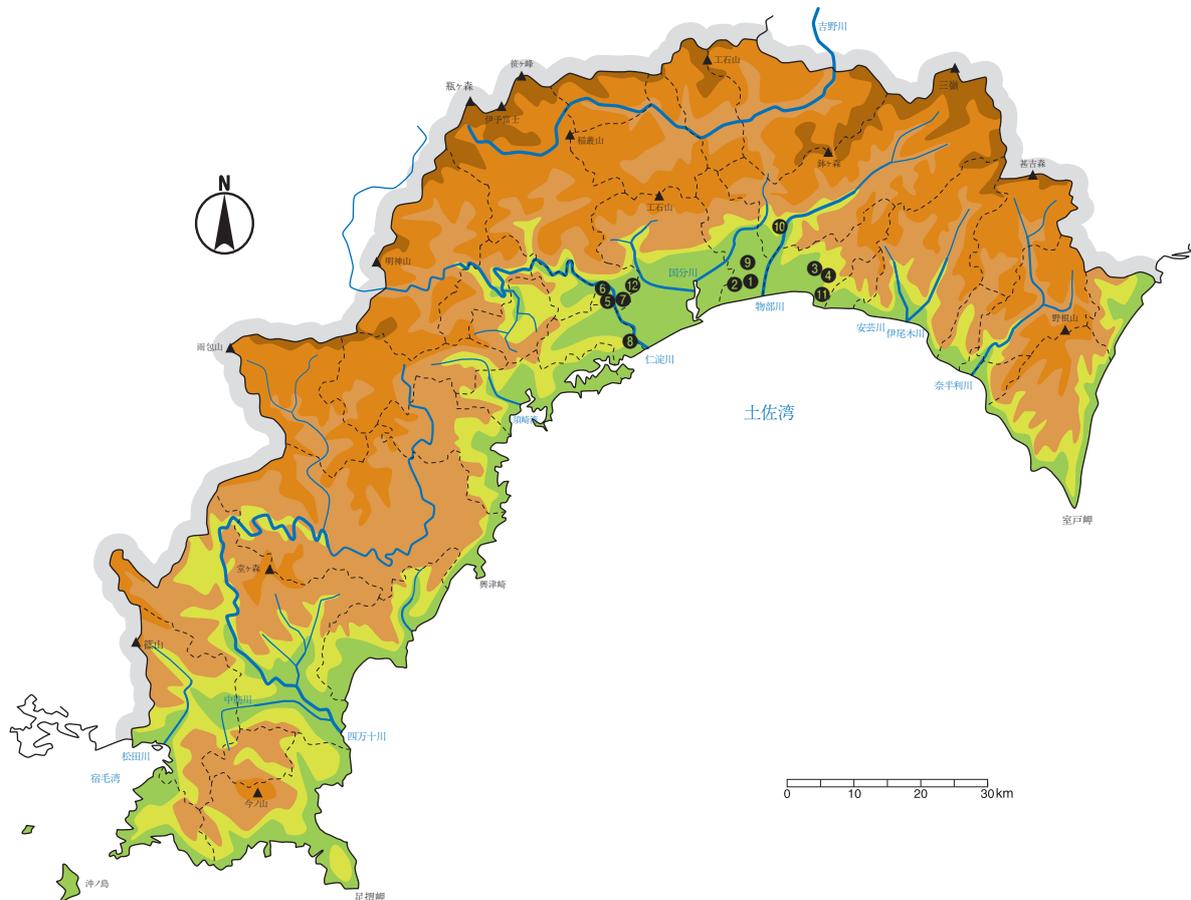


図6 平成20年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致)

1. 発掘調査事業

きる限界に近いものとみられる。

受託先は高知県教育委員会と高知県及びいの町であり、前述のとおり高知県教育委員会からの受託事業は国関係の再委託2件と高知城跡三ノ丸石垣改修事業にかかる整理作業の3件、高知県からの受託事業はいずれも中央東土木事務所関係で、都市計画道路高知山田線改築工事に伴う伏原遺跡⁽²⁾の発掘調査と整理作業3件とひびのきサウジ遺跡の整理作業、国道195号(あけぼの街道)改築工事に伴う土島遺跡の発掘調査、県道奥西川岸本線改築工事に伴うクノ丸遺跡の発掘調査の6件、いの町からの受託事業は町道奥名西線改良工事に伴う天神溝田遺跡の発掘調査であった。

次に、各事業について具体的にみえる。まず、高知県教育委員会から受託した国関係の内、高知南国道路外として契約し、平成16年度から継続されている東部自動車道建設(高知南国道路と南国安芸道路)に伴う発掘調査・整理作業及び平成19年度から着手した高知西バイパスの発掘調査があったが、道路特定財源の問題で、4月当初には契約できず、契約が締結されたのは6月6日であった。

高知南国道路では香長条里との関係が考慮される大溝が検出された関遺跡と第二次世界大戦の坑道、通信壕など本土決戦に備えた日本軍の陣地跡が確認された向山戦争遺跡の発掘調査及び西野々遺跡の整理作業を実施した。西野々遺跡については報告書の刊行が予定されていたものの、国との間で印刷部数の検討のため次年度以降に見送られた。

南国安芸道路では弥生時代前期・後期の集落跡と中世の屋敷跡さらに第二次世界大戦時の防空壕跡が確認された徳王子大崎遺跡と弥生時代と古代の自然流路跡を検出し、古代の自然流路跡からは多くの木製品に混じって県下初の古代木簡が出土した徳王子前島遺跡の発掘調査及び花宴遺跡の整理作業を行った。

高知西バイパスでは谷部に所在する古代と中世の溝跡などを検出した鎌田遺跡、薬研堀の堀切を

表5 平成20年度受託発掘調査事業(整理作業)一覧表

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託先
1	西野々遺跡	05-2NN 06-2NN	南国市大埴字竹中	弥生 ～ 近世	集落跡 官衙跡	6/6 ～ 3/31	国交省	道路	県教委
2	花宴遺跡	05-16YH 05-1YH	香南市香我美町 徳王子花宴	弥生	生産遺跡	6/6 ～ 3/31	国交省	道路	県教委
3	北ノ丸遺跡	07-8TK	土佐市新居	古墳	祭祀跡	4/1 ～ 3/31	国交省	河川	県教委
4	伏原遺跡	06-10KF	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ～ 古代	集落跡	8/7 ～ 2/28	高知県	道路	高知県
5	ひびのきサウジ 遺跡	07-6YH 07-7YH	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ～ 中世	集落跡	9/1 ～ 3/15	高知県	道路	高知県
6	伏原遺跡	07-15KF 08-15KF	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ～ 古代	集落跡	9/29 ～ 2/28	高知県	道路	高知県
7	高知城跡三ノ丸	07-9KK	高知市丸ノ内	中世 ～ 近世	城郭	5/1 ～ 6/30	高知県	石垣	県教委
8	ひびのきサウジ 遺跡	07-6YH 07-7YH	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ～ 中世	集落跡	2/27 ～ 3/31	高知県	道路	高知県

確認した見張り台的な中世城跡である貢山城跡、仁淀川左岸にある古代から中世の集落跡とみられる天神溝田遺跡の発掘調査を行った。

高知県教育委員会から受託したもう一つの国関係事業は、波介川河口導流事業に伴う上ノ村遺跡の発掘調査と北ノ丸遺跡の整理業務である。上ノ村遺跡では弥生時代から中世にかけての集落跡の調査を行い、弥生時代の住居跡から多量の鉄器が確認された。また、近代の旧堤防の下層からは江戸時代前期の護岸遺構が確認され、全国的に類例が少なく太閤堤などとの比較検討資料として注目された。

県関係では、土島田遺跡、伏原遺跡(伏原遺跡Ⅱ)、クノ丸遺跡の発掘調査を行った。土島田遺跡は平成19年度からの継続事業で、弥生時代後期の集落跡とそれに伴う壺棺墓群が確認されると共に7世紀代の集落跡も検出され、それを壊して南海道ではないかとみられる道路遺構が発見された。伏原遺跡は平成19年度の繰越事業⁽³⁾であり、平成19年度から継続的に調査を実施した。遺跡は弥生時代後期後半を中心に弥生時代中期末から古代にかけての集落跡で、多数の竪穴住居跡や壺棺墓群が確認されると共に大型勾玉や石製紡錘車が出土した。クノ丸遺跡は浜堤に立地する中世の集落跡で、土錘が多数出土している。また、古墳時代後期の高杯などがまとまって出土した土坑も確認されている。これ以外に伏原遺跡Ⅰ・Ⅱ、ひびのきサウジ遺跡及び高知城跡三ノ丸石垣改修に係る整理作業を実施した。

センター開設以降ほとんどなかった市町村からの受託事業として、高知西バイパスに絡むいの町

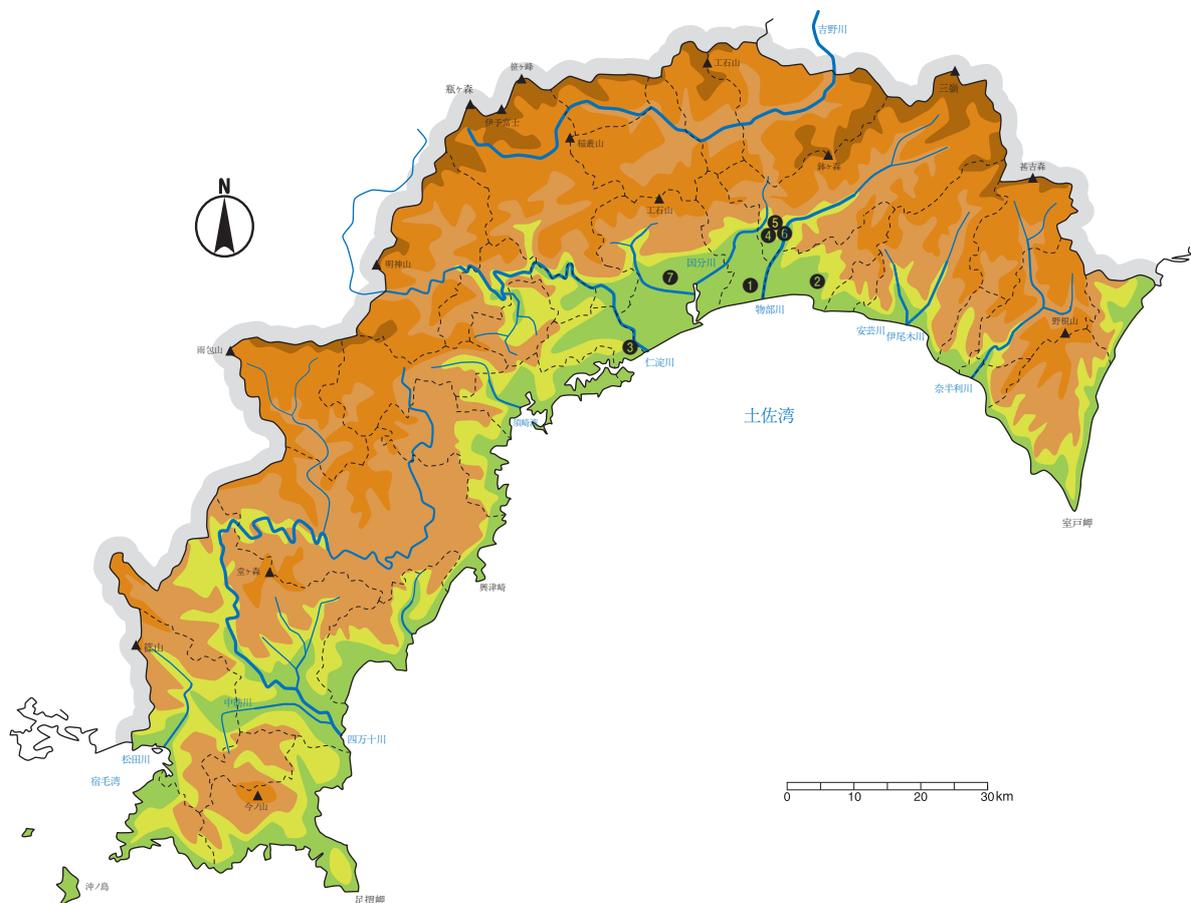


図7 平成20年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘調査事業(整理作業)一覧表の番号と一致)

1. 発掘調査事業

の町道改良工事に伴う天神溝田遺跡の発掘調査を実施した。調査では、古代から中世にかけての集落跡が確認され、隣接するバーガ森北斜面遺跡に関連する遺物も出土している。

以上、平成20年度の受託事業の概要を記したが、今後整理作業の比重が高くなっていくことが予想される中、埋蔵文化財センターの重要な受託事業である土佐国道事務所関係事業は今後も発掘調査が中心となり、現場を担当する専門調査員不足が懸念される。

(2) 発掘調査報告書

平成3年度に埋蔵文化財センターが設立して以来、初めて報告書の刊行がなかった。各遺跡とも整理期間中ということもあるが、委託者からの要請で発掘調査を優先せざるを得ず限られた調査員では報告書刊行に至るまでの整理作業ができなかったことも一つの要因に挙げられる。また、国との報告書の印刷部数の調整がつかず、道路事業関係では報告書の印刷を見送った。今後、さらに予想外の事態が訪れないとも限らず、報告書刊行に止まらず埋蔵文化財センターの運営にも大きな影響を及ぼすことも考慮される。

いずれにしても、粛々と整理作業を行っていくことが発掘調査を担った者の責務であり、平成21年度には本年度整理作業を受託した事業で報告書の刊行を予定している。

註

- (1) 国関係事業については事務所単位の国土交通省四国地方整備局と県教育委員会との委託契約を受けて、県教育委員会と委託契約を行っている。土佐国道事務所関係では、高知南国道路外として高知南国道路(西野々遺跡、関遺跡、向山戦争遺跡)、南国安芸道路(花宴遺跡、徳王子大崎遺跡、徳王子前島遺跡)、高知西バイパス(貢山城跡、鎌田遺跡、天神溝田遺跡)の発掘調査と整理作業を行い、高知河川国道事務所関係では、上ノ村遺跡の発掘調査、北ノ丸遺跡の整理作業を行った。県関係事業では、1件は平成21年度への繰越事業であった。
- (2) 調査年度によって分け、平成18年度分が伏原遺跡Ⅰ、平成19・20年度分が伏原遺跡Ⅱとして別々に契約し、伏原遺跡Ⅱについては発掘調査と整理作業を分けて契約した。
- (3) 伏原遺跡Ⅱの発掘調査面積は、平成19年度分が1,476㎡、平成20年度分が3,253㎡であり、総調査面積は4,729㎡となった。

2. 指定管理事業

(助)高知県文化財団として指定管理者になり、高知県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務を行うようになって3年目で、最終年度に当たった。年間4回の展示会、29本の公開講座、64校への出前考古学教室、ホームページやWeb公開データベース等での情報公開など広報普及事業に取り組み、入館者は徐々にではあるが増加し、2年目の平成19年度には開設以来初めて2,000人を突破し、3年目の平成20年度は2,561人の入館者を数えた。特に、「掘りゆうぜよ高知 2008 遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを県内の小中学生全員に配布したところ大きな反響があり、親子考古学教室には前年の約4.7倍の686人の参加があった。この参加数がそのまま入館者数の増加数に反映している。



写真1 年間行事カレンダー

(1) 公開展示

埋蔵文化財センターの発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開し、埋蔵文化財保護の推進及び普及啓発を図ると共に県民文化の振興に寄与することを目的として、年4回の展示会を開催した。展示構成は、高知県立埋蔵文化財センターには常設展示スペースがないことから第1回を企画展1として通史的な展示、第2回を四国地区埋蔵文化財センター巡回展である「第5回発掘へんろ」、第3回を企画展2で「道路開発であらわれた遺跡展」として各道路開発ごとの展示、第4回としてテーマを絞った展示を行う「特別展」として行い、各展示会では展示報告会と展示解説会を各1回、特別展では特別記念講演会を開催した。この内、巡回展、企画展2、特別展については報道機関に後援を依頼し、告知放送をお願いした。

なお、平成20年度は入館者数目標を平成19年度の約10%増の2,400人の設定であった。

① 企画展1

平成20年4月15日(火)～7月11日(金)を会期に「考古資料からみた高知県の歴史」をテーマとして、旧石器時代から江戸時代までの埋蔵文化財センターに所蔵する発掘調査で得られた出土文化財を用いて高知県の歴史や遺跡調査の果たす役割について展示を行った。また、観覧の便を供するために展示解説シートを作成した。5月10日(土)に展示報告会、6月14日(土)に展示解説会を開催し、報告会に

表6 入館者推移表と平成20年度の入館者

年度	合計	内訳(人数)								入館者数内訳		
		常設展	巡回展	企画展	企画展1	企画展2	速報展	特別展	その他	子ども	大人	展示報告・解説
H13年度	811	811	-	-	-	-	-	-	-	487	-	-
H14年度	821	177	-	644	-	-	-	-	-	493	-	-
H15年度	1,171	468	-	703	-	-	-	-	-	702	-	20
H16年度	1,522	402	801	319	-	-	-	-	-	913	-	0
H17年度	1,180	300	538	342	-	-	-	-	-	708	-	0
H18年度	1,555	504	449	-	-	-	482	-	120	582	973	47
H19年度	2,182	392	809	501	-	-	-	333	147	348	1,834	87
H20年度	2,561	-	1,224	-	451	328	-	253	305	740	1,821	147
合計	9,242	3,054	3,821	2,509	451	328	482	586	572	4,233	4,628	301
平均	1,320	436	764	501			-	293	190	604	1,543	50

2. 指定管理事業

は42人、解説会には9人の参加があり、入館者数は451人であった。

② 四国地区埋蔵文化財センター巡回展第5回「発掘へんろ」

四国の埋蔵文化財センター5館が毎年持ち回りで実行委員長を務め、平成20年度で一巡し、「発掘へんろ」最後の展示となった。「遺跡にみる国際交流」をテーマに高知会場である高知県立埋蔵文化財センターでは8月1日(金)～10月31日(金)の会期で開催し、昨年度の約5割増しの1,224人の入館者があった。会期が3ヵ月と長かったことと夏休み企画を開催したことが入館者の増員に繋がったものとみられる。展示では、日本唯一のモザイク玉を始めとして、四国各地の中国製の破碎鏡や輸入陶磁器などの他に各埋蔵文化財センターの最近の発掘調査の出土遺物も列品して、成果を見て頂いた。なお、8月2日(土)に展示報告会、9月20日(土)に展示解説会を開催し、報告会には22人、解説会には6人の参加があった。

③ 企画展2

企画展2では、「道路開発であらわれた遺跡展」と銘打ってこれまでに発掘調査を行った道路関係の遺跡の展示を企画し、2回目となる平成20年度は土佐市バイパス建設に伴って平成8年度から平成16年度にかけて発掘調査した遺跡の展示(「道路開発であらわれた遺跡展Ⅱ」)を行った。湖州方鏡、蝙蝠扇、埴伝など県内初となる出土遺物を始めとして完存する龍泉窯系青磁碗などを列品すると共に発掘調査した天神遺跡、林口遺跡、光永・岡ノ下遺跡、野田遺跡、野田廃寺跡、京間遺跡の6遺跡の解説展示を行った。会期は11月18日(火)～平成21年1月16日(金)で、11月22日(土)に展示報告会、12月13日(土)に展示解説会を開催し、報告会には21人、解説会には15人の参加があり、入館者数は328人であった。

④ 特別展

平成20年度は「古代人とまつり」をテーマとして埋蔵文化財センターの発掘調査で出土した祭祀の道具を中心に、古代の人とまつりの関わり合いを解説展示した。展示では、具同中山遺跡群の祭祀跡を再現したり、古津賀遺跡群の斎庭跡を復元するなど観覧者に発掘当時の様子を観て頂いた。また、平成21年2月8日(日)には徳島市立考古資料館一山典館長を招き、特別記念講演会をかるぽーと小ホールで開催し、76人の参加を得た。会期は平成21年2月3日(火)～3月19日(木)で、2月7日(土)に展示報告会、3月7日(土)に展示解説会を開催し、報告会には23人、解説会には9人の参加があり、入館者数は253人であった。



写真2 発掘へんろポスター



写真3 企画展2展示解説会



写真4 企画展2ポスター



写真5 特別展ポスター



写真6 特別記念講演会

(2) 公開講座等

地域の歴史や遺跡について興味や関心を高め
てもらうために市町村及び学校と連携して、考
古学の基礎知識とともに地域の歴史や遺物の概
要を広く県民に分かり易く、かつ興味を持てる
ような講座や体験教室を開催することに心掛け
た。平成20年度も、少なくとも月1回の開催を
目標に、平成19年度とほぼ同じ6種類の講座を
計画し、夏休み前には「掘りゆうぜよ高知 2008
遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを県内
の小中学校生全員に配布して講座の周知を図っ



写真7 考古学講座

表7 公開講座参加者数(館内)

年度	合計	内訳(人数)					
		親子考古学 教室	考古学講座	発掘調査 報告会	古代ものづく り体験教室	遺跡見学会 発掘調査見学会	先生のための 考古学教室
H13年度	—	—	—	—	—	—	—
H14年度	48	48	—	—	—	—	—
H15年度	109	109	—	—	—	—	—
H16年度	175	175	—	—	—	—	—
H17年度	120	120	—	—	—	—	—
H18年度	286 (204)	125	136 (54)	—	—	25	—
H19年度	444 (409)	146	110 (75)	138	35	6	9
H20年度	1,122 (1,086)	686	83 (47)	173	148	22	10
合計	2,304	1,409	329 (176)	311	183	53	19
平均	329	201	109	155	91	18	9

※考古学講座の()内人数は来館人数、()以外は館以外(四万十市と南国市)での参加人数を含む。

2. 指定管理事業

た。このチラシが予想以上の反響を呼び、親子考古学教室と古代ものづくり体験教室に応募が殺到し、年4回の計画であった親子考古学教室を14回追加し、計18回、年5回の計画であった古代ものづくり体験教室を7回追加し、計12回開催した。

また、講座の周知には年間行事カレンダーの配布以外に、毎回高知新聞夕刊の伝言板に案内を掲載してもらおうと共にこれまでに講座に参加して頂いた方には案内の葉書を郵送した。

① 考古学講座

中核をなす講座で、埋蔵文化財センターで2回、四万十市教育委員会との共催で四万十市立中央公民館で1回、南国市教育委員会との共催で南国市立公民館で1回の計4回開催した。参加者は全体で83人(平均約21人)と昨年度より

27人減少した。参加者の多くは毎回参加してくれる方であり、今後新たな参加者を開拓して行くためには興味をそそるテーマを考えていかなければならないだろう。

② 発掘調査報告会

前年度に発掘調査を行った遺跡を中心に、写真を交えながら調査成果について解説するもので、平成20年度は中世の窯跡と寺院跡が確

表8 平成20年度考古学講座

No.	開催日	内容	担当者
1	平成20年 5月24日	土佐国の古代の官衙	廣田佳久
2	平成20年 7月26日	南四国の縄文時代	前田光雄
3	平成20年11月15日	南四国の弥生時代	出原恵三
4	平成21年 1月31日	田村城館の調査成果と課題	坂本裕一

表9 平成20年度発掘調査報告会

No.	開催日	内容	担当者
1	平成20年 6月21日	坂本遺跡(平成18年度の発掘調査報告)	前田光雄
2	平成20年 8月23日	土島田遺跡(平成19年度の発掘調査報告)	山本哲也
3	平成20年 10月25日	伏原遺跡(平成19・20年度の発掘調査報告)	久家隆芳
4	平成20年 12月 6日	上ノ村遺跡(平成18・19年度の発掘調査報告)	坂本憲昭

表10 平成20年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者
企画展1(4月15日~7月11日)			考古学講座		発掘調査報告会	
展示報告会	5月10日(土)	42人	1	5月24日(土) 27人	1	6月21日(土) 43人
展示解説会	6月14日(土)	9人	2	7月26日(土) 12人	2	8月23日(土) 47人
巡回展(8月1日~10月31日)			3	11月15日(土) 20人	3	10月25日(土) 40人
展示報告会	8月2日(土)	22人	4	1月31日(土) 24人	4	12月6日(土) 43人
展示解説会	9月20日(土)	6人	水野先生特別記念講演会			
企画展2(11月18日~1月16日)			7月13日(日) 137人			
展示報告会	11月22日(土)	21人	先生のための考古学教室			
展示解説会	12月13日(土)	15人	1	8月4日(月) 5人		
特別展(2月3日~3月19日)			2	8月25日(月) 5人		
展示報告会	2月7日(土)	23人	遺跡見学会			
展示解説会	3月7日(土)	9人	10月22日(水) 22人			
記念講演会	2月8日(日)	76人				

認められた四万十市坂本遺跡、古代の官衙関連建物群が検出された土島田遺跡、弥生時代後期後半を中心とした集落跡である伏原遺跡、縄文時代から中世に至る集落が確認されている上ノ村遺跡の4本の報告会を開催した。参加者は全体で173人(平均約43人)と前年より35人増加した。タイムリーな内容であることや出土遺物を実見してもらうことなどが好評な要因と考えられ、参加者の中には発掘調査に従事した現場作業員の方も目立った。



写真8 発掘調査報告会

③ 親子考古学教室

親子で勾玉づくりや火起こし体験をしてもらう企画で、夏休み期間を中心に年4回計画し、平成20年度は前述のようにチラシを配布して周知を図ったところ、予想以上の応募があり、14回追加開催し、計18回の延べ参加人数は686人と、前年より540人も増加した。インターネットが普及しても紙媒体の効果の大きさを改めて知ることとなった。また、小中学校生全員に配布したことも効果があったものと思われる。

④ 先生のための考古学教室

平成19年度から新たに設けた講座で、2日間の日程で開催したが、平成20年度は参加者の負担を軽減するため1日の日程に変更し、8月4日(月)と25日(月)の2回開催した。高知県教育委員会

表11 平成20年度公開講座2 の教職員研修等案内に掲載してもらうと共に、県内の各学校

親子考古学教室			
	開催日	回数	参加者
1	7月26日(土)	1回	47人
2	7月31日(木)	2回	81人
3	8月2日(土)	1回	47人
4	8月6日(水)	1回	38人
5	8月9日(土)	2回	80人
6	8月11日(月)	2回	76人
7	8月15日(金)	2回	81人
8	8月17日(日)	2回	65人
9	8月20日(水)	1回	44人
10	8月23日(土)	1回	44人
11	8月24日(日)	1回	27人
12	9月13日(土)	1回	41人
13	1月10日(土)	1回	15人



写真9 掘りゆうぜよ高知2008



写真10 親子考古学教室

2. 指定管理事業

に案内を送付し、周知を図った。参加者は各5名の計10名で、天候に恵まれ、土島田遺跡での発掘調査現場も体験して頂き、参加者には好評であった。当センターには11名の派遣教員が在籍しており、より多くの教員の方に考古学への関心を持ってもらうことが埋蔵文化財の普及啓発には欠かせない。

⑤ 古代ものづくり体験教室

平成19年度から新たに設けた講座で、前述のチラシ効果で、ガラス玉づくりに応募が多く、当初計画していた5回に加えて7回追加し、計12回開催し、参加延べ人数は148人と前年度に比べ113人も増加した。内容は勾玉づくり1回、土笛づくり1回、ガラス玉づくり10回(当初3回)であった。

⑥ 発掘現場見学会

平成20年度は土島田遺跡の発掘調査現場の見学会を行った。調査している状況を見て頂くために作業している平日を開催日としたにも関わらず22人の参加があった。現地説明会と異なり、実際調査中の発掘現場を見学することで、遺構が検出される様子や遺物が出土する状況等を見ることができた。



写真11 古代ものづくり体験教室

表12 平成20年度公開講座3

古代ものづくり体験教室			
	開催日	回数	参加者
1	5月31日(土)	1回	12人
2	8月13日(水)	2回	23人
3	9月27日(土)	2回	32人
4	11月1日(土)	2回	18人
5	12月20日(土)	2回	18人
6	12月27日(土)	2回	19人
7	2月14日(土)	1回	26人

(3) 情報公開等

インターネットを活用した情報公開、物品(県有物)等の貸出、施設見学、職場体験及び発掘現場見学などの受け入れを行った。

① ホームページ

平成19年度にリニューアルし、引き続き同じテンプレートを平成20年度版に更新すると共により見やすいように修正した。広報普及や発掘調査状況等は随時更新して、情報提供を行った。アクセス数は1日40～70件であった。

(財)高知県埋蔵文化財センター URL : <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

② Web公開データベース

高知県立埋蔵文化財センターの情報管理室に設置したWeb公開サーバーに埋蔵文化財情報管理システムと報告書PDFを置き、一般公開している。埋蔵文化財情報管理システムでは遺跡情報管理(遺跡台帳でPDF化した報告書があるものはそれにリンク)、収蔵図書情報管理(図書台帳)、県内発掘調査情報管理(県内の発掘報告書抄録)を掲載している。報告書PDFは名前のとおり、PDF化した報告書等のデータを掲載しているもので、高知県埋蔵文化財センターが刊行した報告書、年報や現地説明会資料を一般公開している。いずれも、随時更新しているが、平成20年度は報告書の刊行がなく、現地説明会資料のみを新たに掲載した。また、複数の報告書を刊行している遺跡については、遺跡の紹介から関係報告書にアクセスできるように改良した。

PDFデータは一括ダウンロードとデータ量によっては分割ダウンロードもできるようにしており、利用者の便を図っている。

Web公開データベースURL：http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/

③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領に則り、迅速かつ適切に管理と貸出を行い、交換図書として寄贈された報告書等も随時登録し、Web公開して一般の方に情報提供している。

また、収蔵庫で管理している出土文化財についてはデータベース化し、埋蔵文化財センターのイントラネットで検索できるシステムとしている。



写真12 ホームページ

表13 平成20年度物品(県有物)貸出し一覧

No.	日時	依頼者	内容	備考
1	H20.4.1～H21.3.31	愛知県陶磁資料館	資料展での展示	
2	H20.4.1～H21.3.31	高知大学 清家章	考古学実習資料	考古学研究室
3	H20.6.9～6.20	高知大学 岡本治代	卒業論文執筆	センター内
4	H20.6.24～H20.9.16	高知県立歴史民俗資料館	企画展での展示	
5	H20.6.24～H20.9.16	高知県立歴史民俗資料館	展示	
6	H20.6.24～H20.9.16	高知県立歴史民俗資料館	展示	
7	H20.6.24	熊本大学 南健太郎	博士論文執筆	センター内
8	H20.7.10	高槻市教育委員会 橋本久和	論文執筆	センター内
9	H20.7.4～H20.11.30	高知県立歴史民俗資料館	テーマ展への展示	
10	H20.7.15～H20.8.31	高知県立美術館	企画展での展示	
11	H20.7.25～H21.3.31	高知県立歴史民俗資料館	常設展示	
12	H20.7.28	高島芳弘	論文執筆	センター内
13	H20.7.25～H21.3.31	高知県立歴史民俗資料館	常設展示	
14	H20.8.13	高井良夫	資料調査	センター内
15	H20.9.30～H20.12.2	徳島市教育委員会	特別企画展での展示	
16	H20.12.1～H21.3.31	高知県立歴史民俗資料館	常設展示	
17	H20.12.10～H20.12.11	高知大学 岡本治代	卒業論文執筆	センター内
18	H20.12.15～H20.12.22	高知大学 矢部俊一	論文執筆	センター内
19	H21.1.27～H21.2.28	武吉廣和	歴史復元展出品	
20	H21.2.2～H21.2.23	高知大学 矢部俊一	論文執筆	センター内
21	H21.3.11	九州大学大学院 倉元慎平	修士論文執筆	センター内
22	H21.3.11	九州大学大学院 森貴教	博士論文執筆	センター内

2. 指定管理事業

平成20年度の物品(県有物)等の貸出は22件で、うち他施設への貸出は12件で、残りの10件はセンター内での実見・実測であった。

④ 施設見学等の受入

学校や各種団体等からの見学依頼及び職場体験等の依頼についても基本的に受け入れており、平成20年度は平成19年度の2.5倍に当たる30件の受け入れを行った。中でも、遺跡見学(入館者数には含めていない)が目立ち各報道機関が取り上げてくれた向山戦争遺跡には予想以上の反響があり、後述の現地説明会以外での個別の見学依頼が6件あった。また、江戸時代前期の護岸遺構が発見された上ノ村遺跡についても5件の見学依頼があった。

また、小中学校からの施設見学も昨年度5件に対して15件と3倍に増え、先生方が埋蔵文化財センターを教育に生かし得る場と捉えてくれるようになりつつある。

発掘調査に伴う現地説明会は例年になく多く、11回開催した。注目される成果が上がり一遺跡で複数回開催したところもあり、延べ参加人数は昨年度の約3.5倍に当たる1,530人を数えた。



写真13 施設見学(南国市中央高齢者教室)



写真14 施設見学(高知市介良潮見台小学校)

表14 平成20年度現地説明会一覧

No.	年 月 日	場 所	遺 跡 名	参加人数	備考
1	平成20年5月18日	香美市土佐山田町伏原	伏原遺跡	約150人	
2	平成20年6月22日	〃	〃	約80人	
3	平成20年8月24日	南国市大桶関	関遺跡	約60人	
4	平成20年9月21日	南国市小籠	士島田遺跡	約60人	
5	平成20年9月27日	吾川郡いの町天神	天神溝田遺跡	約110人	
6	平成20年9月28日	土佐市新居上ノ村	上ノ村遺跡	約130人	午前と午後の2回
7	平成20年11月1日	香南市香我美町徳王子	徳王子大崎遺跡	約80人	
8	平成20年12月7日	南国市伊達野字溝渕	向山戦争遺跡	約400人	
9	平成20年12月21日	〃	〃	約200人	
10	平成21年3月8日	土佐市新居上ノ村	上ノ村遺跡	約160人	
11	平成21年3月14日	香南市香我美町徳王子	徳王子前島遺跡	約100人	
合 計				約1,530人	

表15 平成20年度施設等見学者一覧

No.	団体名	見学日	生徒等	引率者	総数	内容
1	土佐市立波介小学校	H20.5.16	19	1	20	現場見学(上ノ村遺跡)
2	香美市立舟入小学校	H20.5.20	32	1	33	現場見学(伏原遺跡)
3	高知市立介良潮見台小学校	H20.5.29	106	5	111	展示・館内見学, 体験学習
4	山形和江	H20.6.23	19		19	体験学習
5	南国市中学校社会科教育研究会	H20.6.25	11		11	展示・館内見学
6	南野知津美	H20.6.26	2		2	展示・館内見学
7	高知大学大学院人文社会科専攻	H20.7.2	10	1	11	展示・館内見学, 現場見学
8	安芸市立尾木小学校	H20.7.4	14	2	16	展示・館内見学, 体験学習
9	土佐市長	H20.7.6	30		30	現場見学(上ノ村遺跡)
10	南国市立岡豊小学校	H20.7.30	25	2	27	体験学習
11	高知県立追手前高校	H20.7.31	2	2	4	企業・団体等研修
12	仁淀川わくわく会議	H20.8.7	30		30	現場見学, 発掘調査体験
13	高岡地区市町村教育委員会連合会	H20.8.8	43		43	現場見学(上ノ村遺跡)
14	南国市文化とスポーツ振興NPO	H20.8.24	20	2	22	体験学習
15	国際シンポジウム	H20.9.21	27	1	28	展示見学
16	南国市中央高齢者教室	H20.10.8	55	1	56	展示・館内見学
17	高岡地区市町村教育委員会連合会	H20.10.8	20	1	21	現場見学(上ノ村遺跡)
18	土佐市立新居小学校	H20.10.15	27	4	31	現場見学(上ノ村遺跡)
19	退職教職員互助部土長南国支部	H20.10.22	40		40	展示見学
20	いの町立伊野中学校	H20.10.31	5	1	6	現場見学(天神溝田遺跡)
21	中土佐町立笹場小学校	H20.11.11	8	2	10	展示・館内見学, 体験学習
22	高知市立養護学校	H20.11.4～ 11.14	1		1	現場実習
23	高知市立養護学校	H20.11.17～ 11.28	1		1	現場実習
24	南国市立稲生小学校	H20.12.16	17	3	20	現場見学(向山戦争遺跡)
25	高知市立介良潮見台小学校	H21.1.7	15		15	現場見学(向山戦争遺跡)
26	三谷廣	H21.2.7	7		7	現場見学(向山戦争遺跡)
27	土佐中学校	H21.2.20～ 2.22	11		11	校外学習
28	高校教育研究会現代社会部会	H21.3.7	15		15	現場見学(向山戦争遺跡)
29	中澤道子	H21.3.9	10		10	現場見学(向山戦争遺跡)
30	香長中学校	H21.3.28	4	1	5	現場見学(向山戦争遺跡)
合 計			626	30	656	

2. 指定管理事業

(4) 出前考古学教室

平成11年度に南国市内の小中学校を対象とした試行から初めて、10年目を迎え、これまでに小学校を中心に338回実施し、参加校は延べ407校、授業を受けた児童生徒数⁽¹⁾は延べ12,743人、展示・体験学習等の参加者⁽²⁾総数は20,810人を数える。

前年度末に行う出前考古学教室の募集では、指定管理者となった平成18年度以降毎年前年度比で2割増の申込があり、実施できる回数に限りがあることから初めての学校を優先して実施校を決定している。県下的には中央教育事務所管内を中心に西部教育事務所管内からの申込が目

立つ一方、東部教育事務所管内からの申込数は毎年少なく、地域によって埋蔵文化財に対する関心に温度差を感じる。これはある面遺跡数とも関係しているようである。

一方、一度出前考古学教室の授業を受け入れてくれた学校、中でも申し込んだことのある先生はほぼ毎年申込で来ており、先生の埋蔵文化財への関心の有無が出前考古学教室の申込数に少なからず関係しているように思われる。このような状況の中、年々申し込み数が増加していることは埋蔵文化財への関心が高まっているとも言えよう。また、埋蔵文化財センターへ派遣された教員が学校現場に復帰した際に出前考古学教室を始めとして施設見学等に申し込んでくれることもあり、徐々にではあるが埋蔵文化財センターの存在を知ってくれるようになったものと思われる。

① 概要

例年どおり、前年度末に実施校を決定した上で、4月に各学校の担当と実施日の時間帯や準備などについて電話等により打合せを行った。平成18年度以前は4月に実施校に出向き事前の打合せを行っていたが、カーナビゲーションの導入等により電話等により事前打合せを行うこととし、経費削減



写真15 出前考古学教室

表16 平成11～20年度出前考古学教室実績一覧

No.	年度	実施対象地域	対象学年	実施回数	参加校数	実施期間	授業生徒数	参加生徒数
1	平成11年度	南国市	小・中学校	10回	10校	前半	505人	1,428人
2	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	前半	1,352人	3,789人
3	平成13年度	全県下	小学校	26回	27校	前半	1,060人	2,233人
4	平成14年度	全県下	小学校	27回	31校	前半	944人	2,541人
5	平成15年度	全県下	小学校	29回	31校	前半	1,232人	2,121人
6	平成16年度	全県下	小学校	31回	41校	前半	1,083人	1,083人
7	平成17年度	全県下	小学校	33回	34校	前・後	1,049人	1,357人
8	平成18年度	全県下	小学校	51回	60校	前・後	1,772人	1,703人
9	平成19年度	全県下	小・中学校	51回	69校	前・後	2,058人	2,467人
10	平成20年度	全県下	小・中学校	52回	64校	前・後	1,688人	2,088人
合計				338回	407校		12,743人	20,810人

に繋がっている。

さて、平成20年度は5月1日の南国市立若草養護学校土佐希望の家分校を皮切りに平成21年2月23日の土佐市立波介小学校まで52回行い、実施校数は合同開催を含める⁽³⁾と延べ63校、授業を受け

表17 平成20年度出前考古学教室前期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業クラス		展示・体験学習		担当職員	ボランティア
				数	人数	学年	人数		
1	5/1	南国市	若草養護学校 土佐希望の家分校	1	1	中2	1	2	
2	5/2	室戸市	三高小	1	8	6年	8	3	
3	5/8	奈半利町	奈半利小	1	29	6年	29	3	
4	5/9	土佐市	高岡第一小	2	65	6年	65	2	2
5	5/13	本山町	本山小・吉野小	2	21	6年	21	2	1
6	5/14	南国市	後免野田小	1	24	6年	24	2	1
7	5/16	いの町	神谷小	1	10	1～6年	39	2	2
8	5/19	南国市	白木谷小	3	15	1～6年	15	3	1
9	5/22	須崎市	吾桑小	1	14	1～6年	78	2	1
10	5/27	四万十市	川崎小	1	7	6年	7	3	
11	5/28	土佐清水市	清水小	3	81	6年	81	3	
12	5/30	佐川町	尾川小	2	14	1～6年	31	2	2
13	6/3	越知町	越知小	2	48	6年	48	2	1
14	6/4	土佐町	田井小	1	17	2～6年	70	2	1
15	6/5	宿毛市	平田小	3	30	6年	30	3	
16	6/6	大月町	弘見小他9校	1	57	6年	57	3	
17	6/9	高知市	一宮東小	1	40	6年	40	3	1
18	6/10	いの町	伊野南小	3	85	年	85	4	2
19	6/12	高知市	横浜小	2	69	6年	69	4	1
20	6/13	高知市	潮江小	2	67	6年	67	4	2
21	6/17	高知市	泉野小	3	104	6年	104	4	4
22	6/19	安芸市	伊尾木小	1	11	6年	11	3	
23	6/25	土佐市	宇佐小	2	41	6年	41	2	1
24	6/26	黒潮町	田ノ口小・南郷小	4	32	1～6年	83	3	
25	6/27	四万十市	中村小	2	55	6年	55	3	
26	7/1	津野町	中央小	1	14	6年	14	2	
27	7/3	仁淀川町	大崎小・池川小	2	32	6年	32	2	
28	7/7	高知市	秦小	3	104	6年	104	4	3
29	7/9	四万十市	津野川小	2	13	3～6年	23	2	
30	7/10	宿毛市	栄喜小	1	7	1～6年	17	2	
合 計				53	1,115		1,349	81	26

2. 指定管理事業

た児童生徒数は1,688人、体験学習等の参加者は2,088人であった。

i 前期

5～7月の夏休み前を対象としているため歴史学習が奈良・平安時代ないし鎌倉時代まで進んでいる時期でもあり、例年希望する学校が多くなっている。5月1日の南国市立若草養護学校土佐希望の家分校を振り出しに7月10日の宿毛市立栄喜小学校まで30回行った。実施校は合同開催を含め42校で、授業を受けた児童生徒数は1,115人、展示・体験学習等の参加者は1,349人であった。

ii 後期

10～2月の2・3学期を対象とし、10月1日の香美市立楠目小学校から平成21年2月23日の土佐市立波介小学校まで22回行った。実施校は21校で、授業を受けた児童生徒数は573人、展示・体験学習等の参加者は739人であった。この内、波介小学校では土器づくりを行い、1回目に土器の作り方の説明と土器製作、二週間後の2回目は土器焼きを行った。

② 内容

地域で行われた発掘調査成果を基に地域の歴史や各時代の特徴などを説明する授業を核に、埋蔵文化財センターの発掘調査で出土した遺物を時代ごとに見てもらう遺物展示、火起こしや勾玉づくりなどの体験学習で構成し、学校の要望により土器づくりも行った。平成20年度も中規模校以上を中心に、勾玉づくりや火起こしなどの体験学習にはボランティアの協力を受けた。

i 授業

高知県の主な遺跡を解説すると共に遺跡地図や土器などの出土遺物を見せて学校周辺、地域の遺跡についての紹介や埋蔵文化財センターの仕事について説明した。また、埋蔵文化財センターが制作した「高知県の遺跡」や「遺跡の発掘調査と整理作業」の視覚教材を活用し、県内の遺跡や発掘調査の様子などの説明を行った。

ii 体験学習

無料で行う火起こし体験と有料のため希望校で行う勾玉づくり、そして土器づくりなどの体験教室を行った。

a. 火起こし

出前考古学教室の中で最も人気のある授業で、実施校のほぼ全校で行った。できるだけ多くの児童に着火の感動を味わってもらうために舞いきり式の火起こしを取り入れている。天候に左右されるが、舞いきり式で簡単に着火できた児童には本来の火起こしであるきりもみ式にも挑戦してもらった。しかし、着火されることはなかなか難しく、今後の課題となっている。いずれにしても火を起こすことの大変さと共に火を起



写真16 遺物展示解説



写真17 火起こし

こせた時の喜びや感動、達成感を味わうことができるこの体験学習は欠かすことができない。

b. 勾玉づくり

火起こしに次いで人気のある授業であるが、材料費が290円を必要とするため希望校のみで実施した。

まず、「勾玉の神秘」というスライドで縄文時代から続く勾玉の歴史や種類を理解してもらった上で、「勾玉の作り方」のスライドで勾玉づくりの手順を一つ一つ解説し、一人ひとり、個性のある勾玉の形を描き最後まで自力で仕上げてもらった。四角い素材から徐々に勾玉の形ができ、サンドペーパーで磨くにつれ表面が奇麗になっ



写真18 勾玉づくり

表18 平成20年度出前考古学教室後期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業クラス		展示・体験学習		担当職員	ボランティア
				数	人数	学年	人数		
1	10/1	香美市	楠目小	1	33	6年	33	2	
2	10/2	南国市	三和小	1	28	4～6年	33	2	1
3	10/9	四万十市	東山小	2	48	6年	48	2	
4	10/10	四万十市	本村小	1	3	3～6年	22	2	
5	10/25	南国市	大篠小	1	25	4年	25	2	2
6	10/30	四万十市	須崎小	1	6	1～6年	12	3	
7	10/31	四万十市	東中筋小	1	17	6年	17	4	
8	11/6	南国市	日章小	2	43	4年	43	2	2
9	11/13	宿毛市	大島小	1	31	6年	31	2	
10	11/14	土佐清水市	幡陽小	1	7	1～6年	38	2	
11	11/19	高知市	一ツ橋小	2	44	6年	44	3	2
12	11/21	高知市	横浜新町小	3	102	6年	102	5	1
13	11/27	須崎市	南小	1	8	5～6年	26	2	1
14	12/1	土佐市	新居小	1	17	6年	17	2	
15	12/5	土佐市	高石小	1	17	5～6年	29	3	
16	12/9	室戸市	羽根小	1	12	6年	12	2	
17	12/12	高知市	新堀小	2	52	6年	52	3	1
18	1/13	土佐市	高岡第二小	1	12	5～6年	27	2	
19	1/15	室戸市	吉良川小	1	14	1～6年	74	2	
20	2/1	四万十町	川口小	3	20	1～6年	20	2	
21	2/9	土佐市	波介小	1	17	6年	17	5	
22	2/23	土佐市	波介小	1	17	6年	17	5	
合計				30	573		739	61	10

2. 指定管理事業

てくると、児童の目も輝き、黙々と仕上げ作業する姿は体験学習の重要性を感じる時でもある。

c. その他

平成20年度は、平成21年2月に土佐市立波介小学校で土器づくりを実施した。火起こしや勾玉づくり以上に児童に感動を与えることができる体験学習である。本年度も埋蔵文化財センターに在籍したことのある教員からの要望で、実現した。土器づくりの後、乾燥期間を取り、そして土器焼きと少なくとも2日間必要であることから、学校の理解と協力なしにはできない体験学習である。時期的には気候が乾燥した冬場が良く、今後も実施したい体験学習である。

iii 遺物の展示解説

博物館や資料館で目にすることはあっても直接触れることができない土器や石器などの遺物に直接接することができるもので、弥生土器に付着した煤に触れ、指が黒くなったことに驚く児童や石包丁を初めて手にする児童など他では味わうことのできない感動を与えることができる。6年生以外にも希望する学年には絵や写真での説明を加え、実物の迫力を体感してもらった。

また、時代ごとに展示することで、土器や石器の移り変わりを見てもらうこともできた。

iv ボランティア

平成20年度は10名の方にボランティアをお願いした。担当調査員が不足する主に中規模校以上で、火起こしや勾玉づくりでの児童への支援や遺物展示での補助を行っていただいた。例年希望してくれる方も多く、かつ大規模校ではボランティアの方の協力なしでは実施が難しく、今後とも欠かすことができない存在である。

③ 本年度の成果

平成20年度もアンケート結果から児童生徒や教員に大変好評であった。火起こし体験や勾玉づくり等の古代体験や身近にある遺跡を知ったり、遺物展示で本物の遺物に触れることで学習の事前事後では児童の目の輝き、埋蔵文化財に対する関心が違った。出土遺物や体験学習を通じて、自分たちの歴史を少しでも知ることができたことは児童にとってこれからの人生に有用な経験であると共に生まれ育った故郷に親しみを持つ数少ない機会でもある。

6年生を中心に授業を行っているが、毎年新しい児童を対象にすることから今後も学校の授業だけではなし得ない地域の遺跡の紹介や実物に触れ、古代体験を行う出前考古学教室は欠くことのできない埋蔵文化財センターの事業であると再認識した。

④ 今後の課題と目標

i 実施回数

前期で30回、後期で22回の計52回開催した。前期は日程等の問題で、希望校全校に行くことはできず、今後の課題として残った。後期については歴史授業が考古学に直接結びつきにくい時代ということもあり希望校が前期に比べ少なく全校に行くことができた。また、後期は期間的にまだ増やすことも可能であるものの、道具の運搬に制約があり、今後改善することができれば、より多くの学校に出向くことができるのではな



写真19 遺物展示

かろうか。

ii 学校側の受け入れ態勢

全般的に好意的に協力して頂き、予定どおり授業を行うことができた。中には、決定通知後、申請して頂いた担当教員が人事異動で転勤し、引き継ぎが十分できていなかった学校もあり、今後当方から何らかの手立てを講じる必要がある。

また、申請して頂いた担当以外の先生方は概して受動的で、対応も学校によって温度差があり、出前考古学教室をより広く知ってもらう必要がある。

iii 道具類の改良

前述のように現状では舞いきり式の火起こし具を使用し、より着火し易い道具に改良している。本年度も新たに改良型の舞いきり式を購入し、できるだけ多くの児童に着火の感動を与えることができるように努めている。今後は、本来の火起こし方法に移行できるように試みたい。

iv アンケートの見直し

前期は記述する部分が多く集計に時間を要し、かつ、質問欄が多く、今後の出前考古学教室に有用なデータを得にくかったため、できる限り数値化でき、今後も事業が継続してできるデータを得られるようなアンケートを模索した。

v 担当職員

基本的に学校からの派遣教員2名が担当し、大規模校などでは専門職員が応援する体制で望み、かつ、ボランティアの協力を得て行った。当センターの現状からして、専門職員を常時担当させることができないが、今後専門職員が少しでも多く随行できるよう体制強化に努めたい。また、発掘調査の臨場感を生の声で話せるよう担当教員も1年以上現場経験を積んだ者に担当してもらうことにしている。

(5) 研修事業

例年実施している職員専門研修を7月と11月に開催した。7月の研修は講師を引き受けて頂いた大阪府文化財センター理事長水野正好氏の御好意により、1日目は一般の方をも対象とした講演とし、高知市で開催した。2日目は職員を対象とした内容で高知県立埋蔵文化財センターで行った。11月には首都大学東京山田昌久教授にお願いした。また、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所主催の研修に職員を派遣し、専門知識の習得を図った。

なお、平成20年度は市町村文化財担当職員研修は、県教育委員会からの依頼がなく実施しなかった。

(6) 講師等職員の派遣

県内外の文化施設及び団体や大学と教育委員会などから講師依頼があり、埋蔵文化財の広報普及の観点から可能



写真20 水野先生特別記念講演会

2. 指定管理事業

な限り応じた。平成20年度は11ヵ所から依頼があり、6名の職員を派遣した。

また、会議等への派遣は表のとおりである。

註

- (1) 歴史学習を始めた小学6年生を中心に授業を行い、一部には郡部などの複式学級の児童に行った場合もある。
- (2) 授業を行った小学6年生が中心であるが、それ以外の学年の児童が参加することも多い。
- (3) 郡部の学校では2校合同で行ったのが3回、大月町などは10校連合で実施した。

表19 平成20年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師	所属
1	考古学的に見た高知の古代	平成20年7月13日	水野正好	(財)大阪府文化財センター
	埋蔵文化財の現状と課題	平成20年7月14日		
2	遺跡出土の木製品について	平成20年11月17・18日	山田昌久	首都大学東京

表20 平成20年度独立行政法人奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者研修課程

No.	参加研修名	期間	氏名
1	遺物観察調査課程	平成20年8月18日～9月12日	中石 忍

表21 平成20年度情報交換会

No.	研修内容	開催日	担当
1	報告書のデジタル化	平成20年5月23日	廣田佳久
2	上ノ村遺跡の縄文土器	平成20年9月26日	出原恵三
3	伏原遺跡の調査成果	〃	久家隆芳
4	介良野遺跡の遺物組成比率	平成21年1月9日	久家隆芳



写真21 現地説明会

3. その他の事業

平成20年度は全国埋蔵文化財法人連絡協議会(全埋協)のブロック代表幹事が代わったことにより、平成18・19年度のような全埋協関係の事業を担当することはなかった。

一方、高知県文化財団の一施設として「休・廃校活性化プロジェクトin布 2008」に参加し、10月18日(土)・19日(日)に土佐清水市立布中学校で、火起こし体験と勾玉づくりを行った。この時の火起こし体験と勾玉づくりが好評で、別途布小学校からの依頼で平成21年1月18日(日)に出前考古学教室を実施した。



写真22 休・廃校活性化プロジェクトin布 2008

表22 平成20年度講師等派遣依頼一覧

No.	日時・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
1	5月28日	筒井三菜	香南市教育委員会	講師依頼 「香南市内の文化財について」	
2	5月29日	前田光雄	中央地区文化財 保護連絡協議会	講師依頼 「松ノ木遺跡の解説」	
3	7月8日	吉成承三	高知市教育委員会	対談ゲスト依頼 「対談！瓢箪から駒」	
4	7月26日	筒井三菜	徳島市教育委員会	講師依頼 「古墳時代の人々のまつりと信仰」	
5	8月16日	久家隆芳	香美史談会	講師依頼 「伏原遺跡の発掘調査成果について」	
6	8月26日	廣田佳久 森 信輔 筒井三菜	高知市教育研究会 中学校社会科部会	講師依頼 高知県の考古学に関する講話と 出土遺物等の見学	
7	10月1日～ 3月31日	廣田佳久	高知女子大学	高知女子大学非常勤講師 (考古学・博物館学Ⅱ)	木・金曜日 の5限目
8	10月25・26日	廣田佳久	徳島市教育委員会	講師依頼 「古墳時代のまつり」	
9	12月19日～ 1月23日	吉成承三	高知城友の会	講師依頼 「高知城三ノ丸発掘調査について」	
10	1月22日	廣田佳久	(財)高知市 文化振興事業団	講師依頼 「遺跡にみる古代のまつり」	
11	1月23日	吉成承三	松山市教育委員会	講師依頼 「高知城石垣の解体と調査」	

3. その他の事業

表23 平成20年度会議等参加者一覧

No	参加会議等	参加日	参加者
1	「発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成20年4月14・15日	廣田佳久・筒井三菜
2	平成20年度第1回全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会 (山形市)	平成20年5月15・16日	小笠原孝夫・廣田佳久
3	平成20年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会 (京都市)	平成20年6月12・13日	吉成承三・池澤俊幸
4	平成20年度全埋協コンピュータ等研究委員会 全国委員会(山口市)	平成20年7月17・18日	久家隆芳・筒井三菜
5	平成20年度全埋協コンピュータ等研究委員会 中国・四国・九州ブロック会議(北九州市)	平成20年9月4・5日	廣田佳久・筒井三菜
6	平成20年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(広島県三次市)	平成20年10月16・17日	森田尚宏・久家隆芳
7	平成20年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会 (神奈川県横浜市)	平成20年10月9・10日	廣田佳久・坂本憲昭
8	「発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成21年1月8日	廣田佳久
9	第6回全国城郭等石垣整備調査研究会	平成21年1月23・24日	吉成承三
10	平成20年度遺跡整備・保存修理科学合同研究会(奈良市)	平成21年1月30・31日	坂本憲昭
11	向山戦争遺跡関連防衛省防衛研究所資料調査(東京都)	平成21年2月3・4日	出原恵三
12	「発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成21年2月10日	廣田佳久
13	花宴遺跡木製品保存処理中間検査・文化庁協議	平成21年2月25・26日	廣田佳久
14	「発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成21年3月26日	筒井三菜

IV 各遺跡の発掘調査概要

1. 関遺跡(08-1NS)

所在地 南国市大埞字関

立地 沖積平野

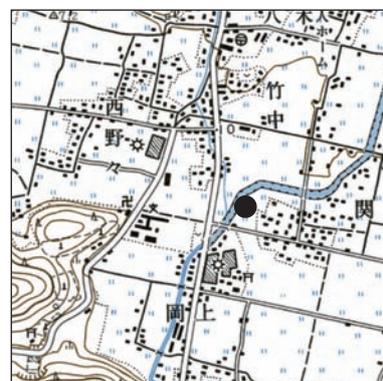
時代 古代

調査期間 平成20年7月1日～9月4日

調査面積 700㎡

担当者 出原恵三

調査内容 関遺跡は、下田川左岸の低地に立地している。川を隔てて西方には弥生時代から中世に至る集落跡である西野々遺跡がある。今回の調査では古代と近世の溝を各1条検出したが、竪穴住居などの生活関連の遺構は確認することはできなかった。生活域の中心は西野々遺跡など周辺部のもう少し標高の高い所にあるものと考えられる。



しかしながら古代の溝は、香長平野の土地開発を知る上で、大変貴重な発見となったのである。南北方向に延びる溝で、幅6m、深さ1m、U字形に掘り込まれ、確認延長は20m程で、さらに調査区外に延びていることが考えられる。溝の底からは、8世紀後半(奈良時代後半)を中心とする土師器や須恵器の杯、皿が出土しており、10世紀代(平安時代前半)の遺物も少量見られ、上層は厚い粘土で覆われている。溝が掘削された時期を正確に知ることは難しいが、これらの遺物から8世紀後半頃に掘削され、10世紀頃にかけて使われていた溝とすることができる。

この溝は、下田川から水を引き周囲の水田を潤す灌漑用の水路として掘削されたことを想定することができるが、幅6mと大規模であることや香長条里の方向にも一致することから条里の坪境の大溝としても機能していた可能性も考えられる。何れにしても古代の大掛かりな水田開発に伴う水路として位置付けられよう。土佐の古代におけるこのような大溝は、高知平野西部の春野町の馬場末遺跡にみられるものの、東部での検出例は今回が初めてのことである。

香長平野の古代史は、土佐国衙跡や国分寺跡の調査のみならず、各地から掘立柱建物や倉庫群などの発見が相次ぎ、遺構・遺物を通してその変遷や諸画期が明らかにされつつある。それらによると8世紀中頃には律令的な体裁が整い9世紀に継続展開するが、10世紀になるとこれらの遺跡は廃絶される傾向にある。この時期、古代社会の変質と再編が窺われるが、大溝の埋没、廃絶もこのような変化と軌を一にした現象と捉えることができよう。10世紀は一般的には大規模開発が進行した時代と言われている。それと一見矛盾するかのような現象は一体何を意味するのであろうか。



写真23 古代の大溝

2. 向山戦争遺跡(08-2NM)

所在地 南国市伊達野

立地 山地頂部・斜面部

時代 近代

調査期間 平成20年9月4日～平成21年1月8日

調査面積 4,000㎡

担当者 出原恵三

調査内容 向山戦争遺跡は、南国市南部の伊達野に所在し、通称「向山」と呼ばれている山塊の尾根や北側斜面部に広がっている。第二次世界大戦末期に作られたいわゆる「本土決戦」陣地跡である。

尾根には大小11基の土坑が掘られ、北側斜面部にはこれらを繋ぐ交通壕が掘り巡らされている。土坑の中の4基は、深さ2～3mの縦坑となっており、階段状に掘り込まれているものもある。これらの土坑は、当時、この付近に迫撃205連隊第1大隊が展開していたことから、南部の平野や海岸線に上陸して来た「敵」の動きを味方の迫撃砲陣地に伝達するための観測壕と考えられる。

山の中腹には南北に貫通する坑道が掘られており、中程でコの字状の部屋と繋がっている。貫通する坑道部分は幅1.8m、高さ2.0m、延長72m、部屋の部分は幅2.6m、延長30mを測る。入り口付近や坑道と部屋との接合部分で、天井や壁の崩落がかなり見られたものの、それ以外のところでは当時の状態を比較的良好に保っていた。床面と壁には90cm間隔で枕木と坑木を埋める穴が明瞭に残っており、三面に板を張っていたことが判る。部屋の壁面の岩盤にはツルハシの痕跡が随所に認められ、埋土中からは、釘、カスガイ、金槌、ガイシ片などが出土している。

北側の斜面には、幅1～2m、奥行き10m前後の細長い壕が15基と迫撃砲などを据えたと考えられる陣地壕が15基ほど確認できた。細長い壕は物資や弾薬等を入れる保管壕と考えられる。この種の壕の多くは床や壁に坑道と同じような枕木と坑木の痕跡が見られる。遺物は保管壕から多く出土し陣地壕からは少ない。小銃弾の薬莖43点をはじめ、カスガイ、釘、十字鋏、アンプル、銅線、ガイシなどが出土している。当時、高知は米軍の上陸が想定されていたことから、第55軍が編成され、隸下の3個師団を中心に7～8万の部隊が展開していた。そして周辺には無数の陣地が構築されていたのである。これらの跡は、戦後長きにわたって顧みられることは、ほとんどなかった。また、戦争体験者が減少しその悲惨さや実相を伝えることができなくなりつつある今日、本遺跡は戦争を知る上で重要な資料として位置付けられる。



写真24 観測壕



写真25 坑道

3. 徳王子大崎遺跡(08-9KO)

所在地 香南市香我美町徳王子大崎

立地 丘陵

時代 弥生時代・中世

調査期間 平成20年7月15日～11月5日

調査面積 1,650㎡

担当者 島内洋二・井上昌紀

調査内容 徳王子大崎遺跡は国土交通省が計画している南国安芸道路の建設に伴い平成17・18年度に実施した試掘調査によって確認された弥生時代と中世の複合遺跡で、北から延びる丘陵上に立地する。後世の削平の影響も少なからず看取されるものの、北側では中世の屋敷跡、南側では弥生時代の集落跡を中心に確認した。

北側からは、中世の屋敷跡に伴うと考えられる区画溝およびピット群を検出した。区画溝の中からは多量の大礫が出土しており、堆積状況から本来は土塁もしくは石積みに使用していたものが廃棄され、溝の中に投棄されたものと考えられる。出土遺物は少ないものの、石鍋や備前焼の甕片などが出土しており、15世紀代の遺構とみられる。

南側からは、弥生時代前期前半の土坑と弥生時代後期の竪穴住居跡、中世の溝状遺溝を検出した。弥生時代前期前半の土坑は、約1.5m×4.0mの長方形で、床面からは土器が置かれたような状態で出土した。簡単な覆いのある貯蔵庫と考えられる。

また、弥生時代後期の竪穴住居跡は、床面より一段高い段を有するベッド状遺構を備えた住居跡であることが確認できた。周辺部からは生産関連遺構などが確認され、調査前から周辺地域より高い場所に位置する当地に集落の存在が想定されていたが、予想どおり竪穴住居跡や土坑などが検出され、今までの調査成果が実を結んだ結果となった。

これらの遺構以外に太平洋戦争時に作られた塹壕を検出した。現在も月見山に残る壕などと共に太平洋戦争時の実像を示すものとして重要である。

これまで下分遠崎遺跡や十万遺跡など周辺の遺跡からは弥生時代前期末～中期前半の遺構、遺物が確認されているが、今回の調査ではさらに古い弥生時代前期前半の土器が遺構に伴って出土したことは、香我美町における弥生集落の出現を考える上で大きな成果であると言える。

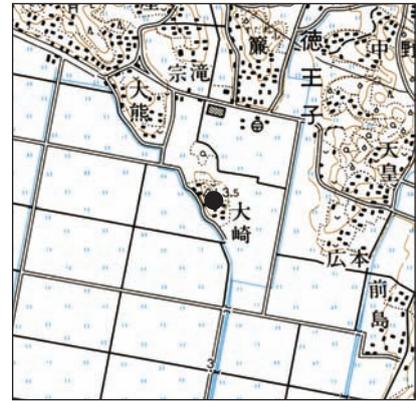


写真26 竪穴住居跡検出状態



写真27 完掘した竪穴住居跡

4. 徳王子前島遺跡(08-10KM)

所在地 香南市香我美町徳王子前島

立地 低湿地, 丘陵

時代 弥生時代～中世

調査期間 平成20年11月6日～平成21年3月21日

調査面積 2,300㎡

担当者 島内洋二・井上昌紀

調査内容 徳王子前島遺跡は、香我美町徳王子に所在する弥生時代から中世にかけての複合遺跡で、香宗川左岸に広がる低湿地と丘陵先端部に立地する。発掘調査は、国土交通省が計画している南国芸道路の建設に伴い実施したもので、弥生時代と古代の自然流路を検出した。

弥生時代の自然流路は、西にある花宴遺跡で検出したものに比べ小規模で、出土遺物も限られていた。

一方、古代の自然流路は幅約3.0mで調査区を縦断する形で南流し、検出長は約50mを測り、流路に沿って杭列や足跡などが確認され、さらに東側ではわずかではあるが畦状の高まりも認められることから自然流路を利用して水田耕作が行われていたものと考えられる。

成果としては、8世紀代と古代末～中世の完形の土器と共に、多量の木製品の出土を挙げることができる。中でも、県内で最多の齋串の出土と上部が破損しているものの残存部だけで43cmを測る県内最大の齋串の出土は注目される。さらに、県内初の古代木簡の出土は特筆される。木簡は2点出土しており、うち1点は本来書き始める上端部には墨痕跡が認められず、中央部から書き始めている。墨の運びからみると中央から書き始めた後反転させて、再度中央より書いたとみられることから習字木簡の可能性が高い。もう1点に関しては完存しているものの、類例がないために詳細は不明であるが、齋串や人形が出土していることから呪符木簡の可能性も考慮される。赤外線カメラによる投影では4行書かれているとみられるが、右の2行は削られており詳細は不明で、左の2行に関しては2～3文字が確認できる。

この他にも人形など祭祀的要素の強い遺物が出土していることから、この場所が古代(奈良～平安時代)の祀りの場となっていたことが考えられると共にこれまで不明であった高知県の古代祭祀の様相解明にも繋がるものとして期待される。

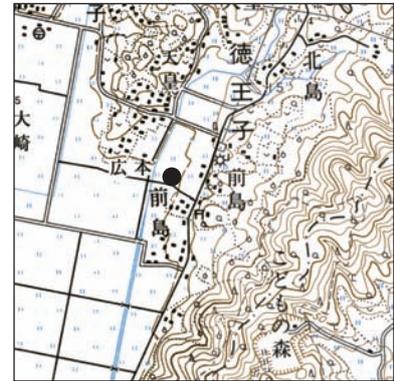


写真28 櫛出土状態



写真29 完掘した古代の自然流路

5. 貢山城跡(08-7IM)

所在地 吾川郡いの町小鎌田字貢山

立地 丘陵頂部

時代 中世

調査期間 平成20年11月12日～平成21年1月13日

担当者 吉成承三・坂本幸繁

調査面積 1,079㎡

調査内容 貢山城跡は鎌田遺跡東側の標高47mを測る丘陵上に立地する。城跡は、平成19年度に行った国土交通省が実施している高知西バイパス建設に伴う現地踏査の際、新たに確認されたもの

ので、平場2ヵ所と堀切1条が遺存しており、試掘調査の結果、堀切や切岸など中世山城の防御遺構を確認した。調査は工事の影響がある平場と堀切部分を対象に実施した。平場は後世に畑地や墓地等に転用されており、一部は開墾の影響を受けていた。平場1は面積318㎡を測り、北東及び北西に張り出した三角形状を呈する。東端部は土塁状に削り残し、西側に向かってやや傾斜する。また、南西部を中心にピットを検出しており、復元には至っていないが掘立柱建物が存在した可能性も考えられる。平場1の北西部、比高差3～4m下には34㎡を測る小規模な平場2がある。さらに、平場2の西斜面側からは通路(犬走り)が検出された。通路は西斜面側から堀切まで続いており、堀切の底を通路として利用していた可能性が考えられる。堀切は平場1の南側で確認され、規模は幅5.7m、長さ13mで西斜面側に長く延びる。深さは1.5m(平場1から堀底までの深さ)を測り、断面形はV字型であり、南側の傾斜をきつくしている。また、平場1の南西斜面側も切岸により傾斜をきつくしており、平場と堀切より南側の防御性を高めている。出土遺物は総点数75点で、近世後半の遺物を中心に、主に平場1の北東部及び西斜面から出土した。中世の遺物は、平成19年度の試掘調査で堀切から出土した中国製青花碗の破片が1点のみである。遺物が僅少であり、貢山城跡の機能時期について詳細は不明であるが、堀切から出土した中国製青花碗及び山裾の鎌田遺跡や平成19年度に発掘調査を実施した城跡東側谷部の城ヶ谷遺跡の調査結果からみて、戦国期のものと考えられる。

仁淀川流域には、このように堀切と平場で構成される山城がいくつかみられ、川に面した丘陵端部に構築されている。貢山城跡も仁淀川に突き出した丘陵上に立地しており、周辺城跡との位置関係から波川城跡や鎌田城跡などに関連する山城であったものと考えられる。また、西斜面側には鎌田と大内を繋ぐ往還道があり、街道を管理する見張り台的な性格の城として捉えることができる。

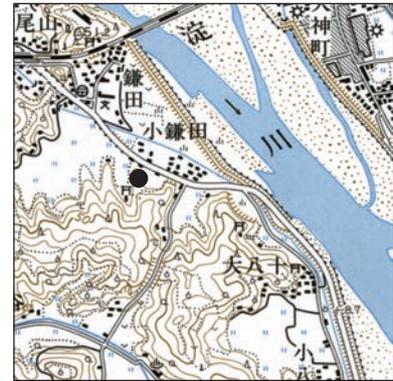


写真30 平場



写真31 堀切

6. 鎌田遺跡(08-11IK)

所在地 吾川郡いの町小鎌田

立地 丘陵裾谷部

時代 古代・中世

調査期間 平成20年11月5日～12月9日

担当者 吉成承三・坂本幸繁

調査面積 163㎡

調査内容 鎌田遺跡は、国土交通省の高知西バイパス建設に伴って実施した平成18・19年度の試掘調査で新たに確認された遺跡で、仁淀川下流域右岸、吾川郡いの町鎌田に所在し、南側から派生する丘陵に囲まれた谷部に立地する。遺跡の南側の谷部には光宜神社が鎮座し、東側丘陵上には、貢山城跡が存在する。現況は標高15～16mを測る田畑であり、調査対象地の北部は昭和40年代に行われた県道工事の際、埋め立てが行われており、2～3mの盛土によって造成されていた。盛土が認められる北部では、旧耕作土下で平安時代の遺物包含層が確認されたものの遺構は検出されず、今回の発掘調査は試掘調査で中世の溝跡とピットが確認された地点を対象地として実施した。

本調査区は丘陵裾部に位置し、谷部からの堆積と仁淀川の氾濫原堆積によって地盤が形成されている。堆積層中には、中世と古代の遺物包含層が確認され、中世の遺構を古代の遺物包含層上面から検出することができた。検出した遺構には土坑3基、溝2条、ピット59個があり、埋土は中世の遺物包含層の黒褐色砂質シルトを主体としていた。これら遺構は、出土遺物から鎌倉時代後半～南北朝期(13世紀後半～14世紀代)のものと考えられる。古代の遺物包含層からは、須恵器と土師器の供膳具が中心に出土したものの摩滅しており谷部からの流れ込みと考えられ、下層からは遺構は検出されなかった。出土遺物は、総点数67点と僅少であったが、奈良時代後半～平安時代前半から中世(南北朝期)までの遺物があり、中世の遺物には瓦器碗や東播磨系の片口鉢の他、中国産の天目茶碗片がみられた。

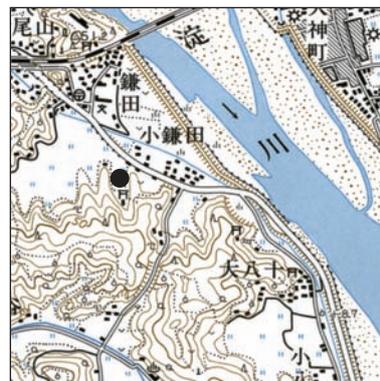


写真32 遺構完掘状態



写真33 遺物出土状態

7. 天神溝田遺跡(08-3ITM)

所在地 吾川郡いの町天神

立地 低位段丘

時代 古代・近世

調査期間 平成21年1月14日～3月25日

調査面積 1,131㎡

担当者 吉成承三・坂本幸繁

調査内容 天神溝田遺跡は、仁淀川の左岸に位置し、支流である宇治川との合流地点に立地する。背後の丘陵上には中世の山城である音竹城跡が所在し、周辺の溝田遺跡では銅矛が発見されている。

今年度の発掘調査は、高知西バイパス建設に伴い、平成18年度の試掘調査で古代から中世にかけての遺構と遺物が確認された部分を対象とした。調査対象地は谷丘陵の裾部に当り、谷部からの堆積と仁淀川の氾濫堆積によって地盤が形成されており、シルト～粘土が主体となっている。現況は病院・町営住宅などの跡地であり、現表土下で検出され上面の遺構は部分的に攪乱の影響を受けているものの17世紀前半～18世紀代にかけての土坑、溝跡、ピットが遺存していた。検出面は段状に成形されており、北西部の下段部分で溝や掘立柱建物の柱穴と考えられる遺構が検出された。調査区北部で検出された2条の溝は丘陵の等高線に沿っており、この2条の溝を境に北側は水田、耕作地である可能性が高い。出土遺物には地元の尾土焼の碗などと共に肥前系の陶磁器類や瀬戸産の陶器類もみられた。

近世段階の整地層下の下面には平安時代後半の遺物包含層が遺存し、調査区中央部から東部にかけて遺構と遺物が特に集中しており、鍛冶関連遺構である椀状の鉄滓と共に焼石や鍛冶に関連する鉄滓が多く出土した。また、遺構検出面の一部に被熱痕跡が認められる部分もあり、鍛冶関連の施設があった可能性が考えられる。出土遺物には土師器、黒色土器、緑釉陶器などがみられ、9世紀後半～10世紀前半と11世紀代にピークがあり、平安時代後半を中心とした遺構とみられる。

今年度の調査は、7～10月に発掘調査を実施した町道改良工事に伴う発掘調査成果とともに天神溝田遺跡の範囲、変遷を知る上で貴重な資料となっている。



写真34 遺構完掘状態



写真35 鉄滓検出状態

8. ^{かみのむら}上ノ村遺跡(08-8TK)

所在地 土佐市新居

立地 沖積平野等

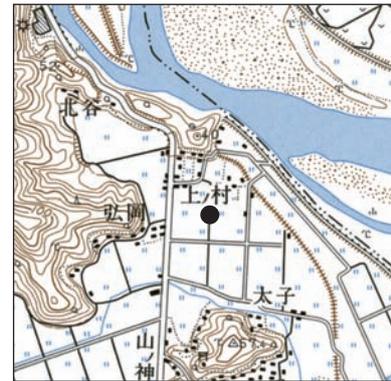
時代 縄文時代晩期～近代

調査期間 平成20年4月18日～平成21年3月16日

調査面積 21,140㎡

担当者 池澤俊幸・野田秀夫・山田耕造・坂本憲昭・松本安紀彦

調査内容 上ノ村遺跡は波介川河口導流事業に伴う5年間の調査により、縄文時代晩期から近世に及ぶ複合遺跡であることが判明している。各時代の遺物量に多寡はあるものの、継続的に出土しており、断絶時期の少なさは県下の諸遺跡の中でも異例といえる。



本年度の調査でも弥生時代から近世に至る各時代から注目される成果がみられた。

まず、弥生時代中期後半では、竪穴遺構や周辺の土坑より多数の鉄製品が出土していることがあげられる。本県では当遺跡対岸の吾南平野にある西分増井遺跡が鉄器生産遺跡として知られているが、同遺跡は弥生時代後期に属する。今回の発見によって、本県における鉄器の本格的な使用が弥生時代中期末に遡るとともに、今後の整理と分析によって、鉄器生産の実態をも明らかにできる可能性がある。

古墳時代では、これまで舌状に突出した新居城跡の川裏側で琴や衣笠が出土したが遺構は確認されていなかった。本年度は一辺約4mの溝に囲まれた1×1間の掘立柱建物跡1棟を検出した。この建物跡では炉跡等は検出されていない。

古代では、土師器と赤漆皿、銅銭が土坑から出土したほか、緑釉陶器も多数出土した。遺構は方形柱穴の建物跡や直線的な溝跡があり、過年度の建物跡群と併せて集落の構造復元が期待できる。

古代末～中世前期では、屋敷地を区画する断面V字形の大型溝跡や多数の柱穴を検出した。出土遺物は多量の和泉型瓦器や貿易陶磁器の他、東播系須恵器鉢、常滑甕片も多い。遺物量は該期に1つのピークがあり、集落の消長を示唆する。

室町時代では、断面逆台形で残存幅約1.9m、深さ約0.4mの溝跡と、掘立柱建物跡群を検出した。過年度の成果と併せると、新居城跡の裾部分にあたる当地点において、方形に区画された屋敷跡群が



写真36 遺跡遠景

復元できるとみられる。過年度の遺物出土概況と比較した場合、本年度調査区における当該期の遺物量はやや少なく、集落内での様相差をみることができる。また時期的には、集落が川寄り・川下方向に拡大した可能性が想定される。

一方、川下側の地区には、既に機能を失った土造りの旧堤防が存在していたが、その断ち割りを行った結果、既述の新居城跡裾部から200m余り下流側で、土堤防内部より石積



写真37 護岸遺構1

みの堤防遺構が出土した。「ハツリ」加工した石を外面が平滑になるよう積み上げ、内部には拳よりやや大きい川原石だけを選んで充填している。上部は断面ドーム状を呈し、馬踏みが1.6m程度と狭い。石積みの特徴からみると、大正～昭和期頃の可能性が考えられる。

さらにこの石積み堤防遺構の下から、石積み遺構が出土した。川裏側には法面が存在しないことから、「石積み護岸遺構」と考えられる。当遺構は自然石を使った野面積みで、基本的に横目地が通り、間詰め石も配置されるが、築石の控えは長くとらず、貼り石的な部分が少なくない。裏込めは存在せず、背後に円礫を薄く入れた部分が僅かに認められるのみである。基本的にはシルトや砂利を含む地山を整形して、直接石を積んでいる。今回確認された当遺構の延長は250mを測り、さらに対象区外へ延びている。

当護岸遺構を特徴付けるものとして、長さ44mに及ぶ平場や突堤状の付属施設がある。平場は護岸遺構の中位程度の高さに造られた台状の遺構で、幅は約7.6mを測る。その下流側端部からは、さらに突堤状の石積みが下流方向に延びている。この突堤状施設の長さは40m強で、さらに下流側には多数の「捨て石」、あるいは石積みの残骸がみられる。これらの施設の機能としては水制が考えられるが、今回検出した遺構の規模や構造と同様の事例は確認しておらず、「水制」のみで全てを説明することは現状では難しい。

石積み護岸遺構に伴う出土遺物は今後も僅少であることが予測されるが、時期比定につながる成果が期待される。また、上位で検出された石積み堤防遺構については、基底部に礫敷きや木組みによる基礎構造の存在が予測される部分があり、今後の調査で明らかになるとみられる。

当護岸遺構の時期が近世前期頃であった場合、土佐藩が該期に行った他の土木事業や石積み遺構との関係も視野に入ってくるが、それについては今後僅少な出土遺物や遺構の特徴を子細に検討する必要がある。



写真38 護岸遺構2

9. 土島田遺跡(08-5NS)

所在地 南国市小籠・東崎

立地 台地

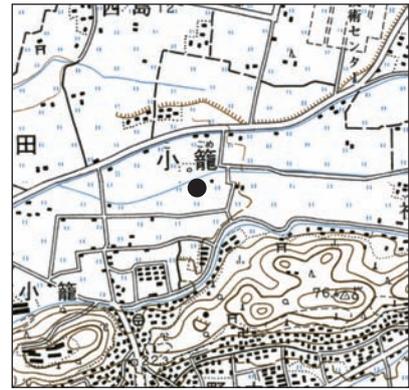
時代 弥生時代～近世

調査期間 平成20年4月19日～平成21年3月20日

調査面積 14,654㎡

担当者 山本哲也・前田光雄・近藤孝文・安岡猛

調査内容 土島田遺跡の発掘調査は国道195号の改築工事に伴って平成19年度から実施しており、本年度の調査対象範囲は16,500㎡と広範囲に及ぶため東と西の二つの調査区に分けて調査を行った。



西側の調査区では、古墳時代の竪穴住居跡と古代の掘立柱建物跡や道路遺構を確認した。古墳時代の竪穴住居跡は2～3軒で構成された小規模なもので、古代の道路遺構がこの竪穴住居跡を壊して造られていた。道路遺構は約6m間隔で南北に並走する幅約30cmの溝跡で構成され、幅員が約6m(20尺)と広いこと、香長平野の古代条里(香長条里)の法線に則していること、そして諸国の主要官道と比較しても遜色ないことなどから古代道路(官道)であったものと考えられる。土佐国の古代官道と言えば南海道があり、この道路遺構が南海道の一部であった可能性が十分考えられる。また、遺構の方向に沿った形で、官衙に関連するとみられる方形の掘方を有する複数の掘立柱建物跡が確認されており、昨年度及び東側の調査区の建物跡を合わせると30棟余りが復元され、当該期には役所に関連する何らかの施設があったものとみられる。

西側と東側の丁度中間部の低湿地部分からは縄文時代中期の土器が出土した。長岡台地では初めての発見で、周辺部に何らかの遺構が遺存している可能性がある。

東側の調査区では弥生時代後期から近世までの遺構、遺物が密集しており、中でも弥生時代後期後半、古墳時代後期そして古代の遺構が重複して検出された。

弥生時代後期後半の竪穴住居跡は径10mを越える円形の大型住居跡を中心に集落を形成しており、終末期になると方形の中型住居跡に変化する。確認された竪穴住居跡は24軒に及ぶ。また、集落の中央部では壺棺が16基検出された。これら壺棺には口縁を打ち欠き鉢で蓋をしたもの、一回り大きな壺の中に入り子に壺を納めたものなどいくつかのバリエーションがみられる。今回の調査の結果、弥生時代の集落規模は径約200mと考えられる。

古墳時代では、7世紀前半を中心とした竪穴住居跡が全体で19



写真39 西側の調査区

軒確認されている。造り付けの竈を持つ住居跡もみられ、長岡台地上に律令期以前の集落が展開していた可能性が強いと考えられる。

古代では10世紀代を中心に大型掘立柱建物跡8棟が確認されている。その前後時期の遺物も出土し、さらに香長条里に沿った幾条かの溝も検出されている。これまで長岡台地は条里地割りから外れ、江戸時代の開拓の灌漑用水の開鑿以前は不毛の地と考えられていたが、今回の調査により長岡台地は律令期前夜からすでに重要な位置を占めていたことが推測され、律令期にはすでに律令体制に組み込まれ、土地利用が行われていたことが判明したことは高知県の古代史を考察する上で重要な意味がある。

近世では山田堰を敷設した後に入植が本格的に行われている。郷土を中心として、長岡台地の開拓、開村が行われ、本調査区でも郷土の屋敷跡と考えられる建物跡、井戸跡、ハンダ土坑、溝跡が検出されている。

長岡台地については、これまで条里施行から外れた古代史の空白地帯であった。しかし、今回の調査で弥生後期の集落跡に加えて7世紀代の集落の存在、古代の道路遺構や建物跡群、土地区画の施行など多岐にわたる新知見が明らかとなり、多大な成果が得られた。



写真40 東側の調査区



写真41 道路遺構

10. 伏原遺跡(07-15KF・08-15KF)

所在地 香美市土佐山田町伏原

立地 長岡台地上

時期 弥生時代～近世

調査期間 平成20年4月1日～9月30日

調査面積 3,253㎡

担当者 久家隆芳・島内洋二・井上昌紀・中石忍

調査成果 伏原遺跡は都市計画道路高知山田線の建設に伴い平成18年度から調査を実施しており、調査面積は累計で約6,300㎡になる。調査の結果、弥生時代中期末～古墳時代前期、古墳時代後期、古代、近世の複合遺跡であることが判明した。

集落の出現は弥生時代中期末で、小規模なムラを形成していたとみられ、確認された遺構は竪穴住居跡1軒と溝状土坑数基であった。遺物には在地系の南四国型土器と瀬戸内系の凹線文土器がみられ、石鏃等の石器製作の目的で持ち込まれたものと考えられるサヌカイトの剥片約130gも出土している。続く後期前葉～後葉に属する竪穴住居跡も少数ながら検出しており、小規模なムラが継続して営まれたと考えられる。

弥生時代後期末～古墳時代初頭には、前段階までの状況が一転する。検出した遺構数、出土した遺物点数も激増しピークを迎える。検出した竪穴住居跡は30軒を越える。また、調査範囲の東端部では土器棺墓群を検出した。土器の大きさから乳幼児を埋葬していたものと考えられ、隣接するひびのきサウジ遺跡からも同様の土器棺墓が検出されている。

古墳時代前期では竪穴住居跡を1軒検出した。高知平野の遺跡のほとんどが古墳時代初頭を最後に突然消滅するが、当遺跡は前期まで継続する数少ない遺跡の

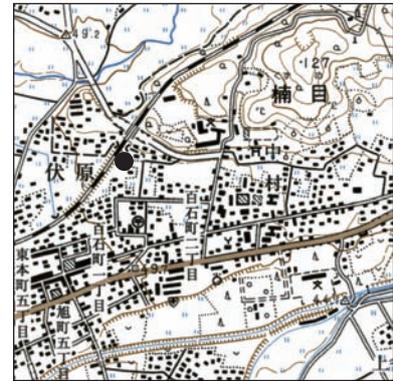


写真42 遺構完掘状態



写真43 壺棺墓群

一つである。出土遺物のなかには庄内式土器(大阪府)、東阿波型土器(徳島県)、下川津B類土器(香川県)、吉備型土器(岡山県)などの搬入土器が見られ、鉄鏃や鉄斧等の鉄器類も比較的多く出土している。これらの他に大型の勾玉が出土している。複数地域の搬入土器がみられることから交流が盛んであったことが窺える。



写真44 弥生土器甕出土状態

古墳時代後期では、竪穴住居跡が数軒検出されたのみで、閑散とした集落景観が復元できる。一方、周辺には伏原大塚古墳、大元神社古墳、鏡野学園前古墳、小倉山古墳など多くの古墳が築造されており、これらの古墳のあり方から考えて検出されている竪穴住居跡の数は少なく、周辺部には未発見の集落跡があるものとみられる。片や出土遺物には銀環、鋸歯文が施された滑石製の紡錘車がみられる。



写真45 勾玉出土状態

古代では復元できた掘立柱建物跡はほとんどなく、柱穴列として検出している。検出した柱穴は比較的規模が大きいものの各柱穴列には厳格な規則性は認められないが、出土遺物には黒色土器碗、緑釉陶器、碗形滓など特筆されるものがある。

近世ではハンダ土坑を中心に検出した。ハンダ土坑は平面形が円形、楕円形を呈し、規模でも2～3種類に分類可能である。保水性を高めるために内側、底を三和土で固められたものである。内側には拳大の川原石を並べ、三和土をつき固めることを繰り返し、かなり丁寧に作られている。二個一対で見つかることが多いことも、この種類の遺構の特徴の一つである。一方、三和土が施されていない素掘りの土坑も認められるが、三和土の有無以外の特徴が類似していることから機能的には同じものであると考えられる。



写真46 紡錘車出土状態

伏原遺跡は台地上に立地し、物部川と土生川(国分川)が接近する場所に位置する。これらの立地上の利点を効果的に活用しながら、地域史のなかで重要な役割を果たしてきたことが上述の調査成果からも窺うことができる。

11. クノ丸^{まる}遺跡(08-6KKK)

所在地 香南市香我美町岸本

立地 浜堤

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成20年7月21日～10月31日

調査面積 2,322㎡

担当者 松本安紀彦・舛田龍也

調査内容 クノ丸遺跡は浜堤に立地する中世を中心とする遺跡で、月見山西麓から西に延びる浜堤の東端に位置し、南には太平洋、北には低地が広がる。遺跡は県道奥西川岸本線改良事業に伴って平成19年度に実施した事前の試掘調査で確認され、平成20年度に本発掘調査を実施した。調査の結果、浜堤頂部に柱穴が集中する傾向が見られ、その近辺から中世の土錘や石錘といった網漁の道具が出土しており、建物跡の復元には至っていないものの漁業に伴う構築物が存在した可能性が考えられる。

また、浜堤頂部から45mほど北では、拳大から乳児頭大の円礫で構成された礫の集中した部分が検出された。このような礫の集中箇所は周辺部に一切見られず、一定の大きさの礫で構成されていることからみて人為的に配置されたものと考えられ、遺存状態のよい中世の土師質土器や拳大の蜂の巣珊瑚が2点出土しており、集石を伴う何らかの祭祀が行われていたことが推察される。

出土遺物は中世の土師質土器や瓦質土器を中心に青磁や白磁といった輸入陶磁器もみられるほか、弥生時代後期の甕や古墳時代後期の高杯も出土する。

県東部及び浜堤上の発掘調査事例がまだ少ない中で、今回の発掘調査は貴重な事例となった。



写真47 集石検出状態



写真48 遺物出土状態

12. 天神溝田遺跡(08-3ITM)

所在地 吾川郡いの町天神字城山他

立地 低位段丘

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成20年7月15日～10月31日

調査面積 1,400㎡

担当者 吉成承三・坂本幸繁

調査内容 天神溝田遺跡は、高知県中央部のいの町天神に所在し、仁淀川の支流である宇治川左岸の低位段丘上に立地する。遺跡の東側にはバーガ森北斜面遺跡が存在し、南側は音竹城跡を含む山々が連綿と連なる場所に立地している。また、周辺には天神遺跡や塔の向遺跡などが所在する。



今回の発掘調査は町道奥名西線道路改良工事に伴うもので、調査区東端では、奈良時代末～平安時代前半(8世紀末～9世紀)に位置付けられる遺物と共に掘立柱建物跡や溝といった遺構も数多く確認され、土佐の古代史を解明する上で貴重な資料を得ることができた。掘立柱建物跡の時期は、8世紀後半～9世紀前半・10世紀代・12世紀後半の三時期に大きく分かれる。これらの建物跡の棟方向は、地理



写真49 遺構完掘状態1

的な制約はみられるものの、時期ごとに規則性をみる事が可能である。特に、8世紀代の建物跡はN-16°-Wを示しており、高知市西部(朝倉)に残る条理地割りラインとほぼ同じ方向であることが確認された。当遺跡の所在するいの町中心部では、これまで律令期(奈良時代～平安時代)の様相を知る古代の遺構と遺物については出土例が少なく、「大野郷」「吾川郷」「朝倉郷」を含めたいの町郡郷の分布や配置については不明であったが、今回の成果はそれに一石を投じることにもなり得る資料であろう。また、「吾川庄」(12世紀～13世紀)として荘園制への移行、変遷を考える上でも貴重な資料となっている。

これら古代の遺物以外に、堆積層中から弥生時代中期の石包丁1点が確認され、下層で検出した溝状土坑からは弥生時代中期の壺、甕、鉢がほぼ原形を保った形で出土している。今後、調査区背後の山上に広がるバーガ森北斜面遺跡の調査



写真50 遺構完掘状態2

も計画されており、弥生時代中期の様相がさらに明らかになるものと思われる。

調査区中央部では、中世段階では溝状遺構等、近世～現代にかけての畝状遺構とピット(柱穴)が検出された。中世の溝は断面V字形を呈しており、屋敷地を区画する溝の可能性が強い。南北朝期(14世紀)の瓦質土器(播鉢・鍋)などの遺物と共に炉跡やピット(柱穴)が検出され、さらに15世紀代の常滑焼(甕)も出土し、遺跡背後にある音竹城が機能していた時期を知る上で、貴重な資料を得ることができた。

調査区西側では桁行4間×梁行2間の掘立柱建物跡が確認され、西端の緩斜面部では弥生時代後期～古墳時代にかけての遺物と焼土を伴った遺構が検出されており、具同中山遺跡群や居徳遺跡群などでみられる水辺の祭祀との関連も考慮される。



写真51 須恵器杯蓋出土状態



写真52 弥生土器出土状態

V 条例・規則等

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

第1条 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

第2条 センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

第3条 センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

第4条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

第5条 センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(遵守事項)

第6条 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(損害賠償義務)

第7条 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

(指定管理者が行う業務)

第8条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

(指定管理者の指定の申請)

第9条 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

(指定管理者の指定等)

第10条 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。

事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

(事業報告書の作成及び提出)

第11条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

第12条 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

第13条 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

第14条 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

第15条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

第16条 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

第17条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

第2条 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

第3条 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号)第10条第2項の規定により指定管理者の指定をしたので、同条例第14条第1号の規定により次のとおり告示する。

(平成18年3月31日教育委員会告示第8号)

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 指定管理者となる団体の主たる事務所の所在地及び名称

高知市高須353番地2

財団法人高知県文化財団

3 指定期間

平成18年4月1日から平成21年3月31日まで

附則

この告示は、公布の日から施行する。

本書作成データ

ハード：Mac Pro 2×2.8GHz Quad-Core Intel Xeon , PowerMacG5/Dual2.0GHz , PowerBookPro/2.5GHz

システム：MacOS X (10.5.7)

ソフト：JeditX 2.1.5 , Microsoft Excel Mac 2008 , ProofReader 2.1.0 , Adobe Photoshop® 10.0.1 , Adobe
Illustrator® 13.0.3 , Adobe Indesign® 5.0.4J

フォント：モリサワOTF基本7書体, Times Italic

プリンタ：DocuPrint C3540 (文書校正)

データ：Macintosh Full DTPで入稿

高知県埋蔵文化財センター年報

第18号

2008年度

発行日 平成21年7月31日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原南泉 1437 - 1

TEL. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社